

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区



はじめに

本活動報告は、麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」において、区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会が、これまでに取り組んだ活動の記録です。

「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」が含められた、かけがえのない価値が備わっています。

本活動報告に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆様の地域への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました区民の皆さんや関係者の方々に、心から御礼を申し上げます。

令和 3 年 3 月 港区麻布地区総合支所協働推進課

《 目 次 》

はじめに	01
I 分科会活動の概要	02
「麻布未来写真館」とは	02
II 分科会メンバー作成パネルの紹介	03
パネルの作成	03
平成 27 年度に作成したパネル	04
平成 28 年度に作成したパネル	26
平成 29 年度に作成したパネル	48
平成 30 年度に作成したパネル	65
令和 元 年度に作成したパネル	86
令和 2 年度に作成したパネル	101
III これまでの活動を振り返って	108
メンバーのことば	108
IV 参考資料	112

この冊子は、区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会のメンバーが、平成 27 年度から令和 2 年度までの 6 年間の活動で作成したパネルをまとめたものです。



I 分科会活動の概要

「麻布未来写真館」とは

「麻布未来写真館」事業実施の背景

麻布地区は、区内にある大使館の半数以上が集中し、外資系企業も多く立地するなど、国際的な「まち」です。また、外国人が多く利用する六本木の繁華街は、麻布の「まち」の国際的な魅力を高めることに貢献しています。

麻布には由緒ある寺院や、毛利庭園のように大名屋敷の面影を今に残す庭園や、小説や落語に登場する坂や町名も多く残るなど歴史と文化の「まち」でもあります。一方、アークヒルズ、泉ガーデンや六本木ヒルズ等に代表されるように、大規模なまちづくりによって「まち」が大きく変化しています。

こうした大規模なまちづくりにより「まち」が変化していくなかで、貴重な歴史的・文化的資産を次世代へ伝えていくとともに、麻布に暮らす多くの人々に麻布の歴史や文化をもっと知ってもらい、麻布の「まち」をより身近に感じ、愛着を感じてもらうための取組が重要です。

事業の趣旨

麻布地区総合支所では、平成21年度から区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を実施しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

区民との協働事業

広報紙等の募集を通じて集まった「区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会」のメンバーとともに、収集した資料等を活用したパネル作成に向けたワーキング、まち歩きによる「まち」の変化の撮影やこれまでに作成したパネル等の発信、事業の周知に向けた検討等を実施しました。

また、分科会メンバーが作成したパネルは、大学や企業等の協力のもと、「パネル展（常設展示・企画展示）」により広く公開しています。

区民参画組織「麻布を語る会」とは

麻布地区総合支所では、平成18年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組に力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現に向け、区民主体の検討や取組を進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

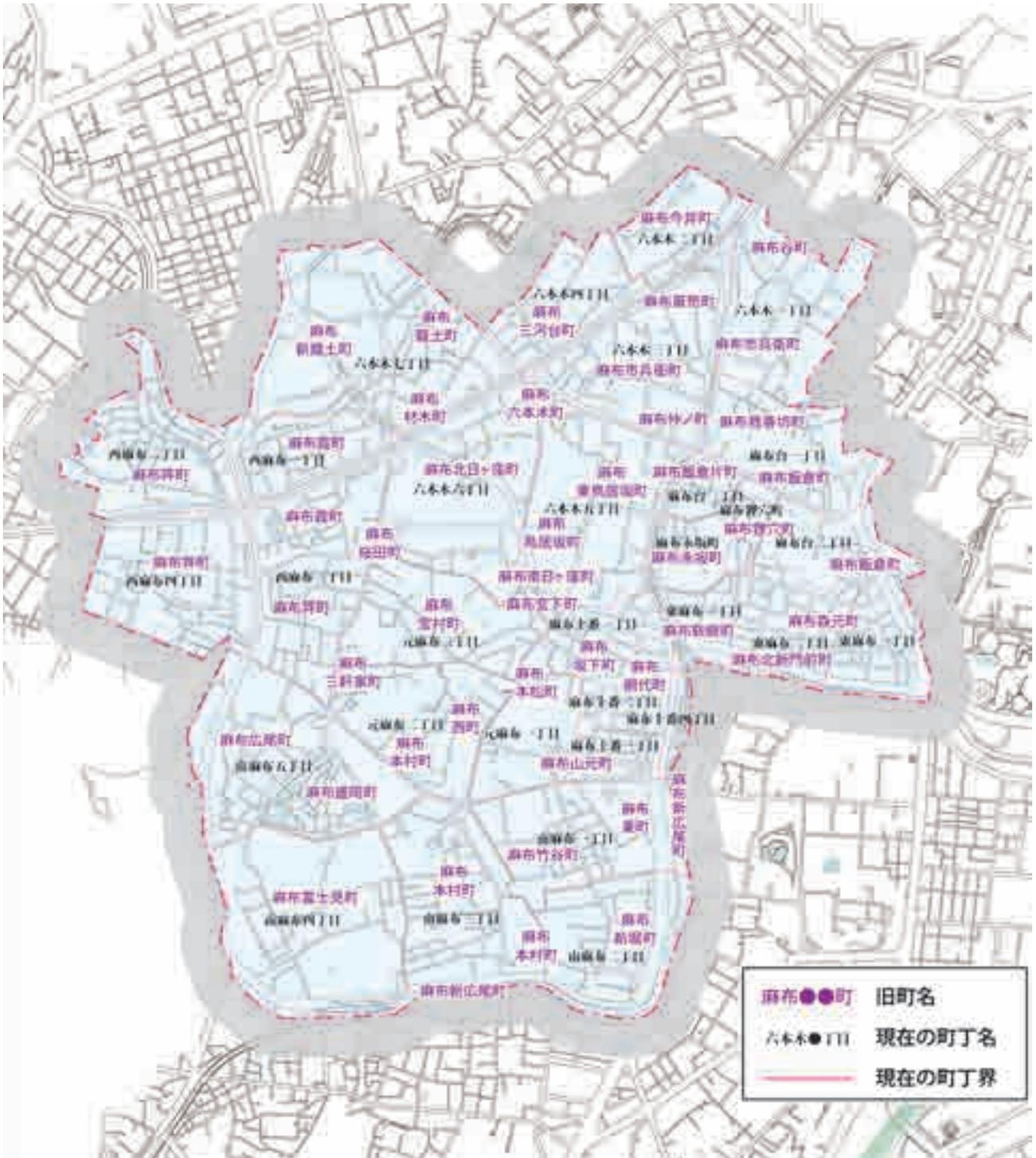
メンバーは、麻布地区内に居住、勤務、在学し、または麻布地区のために活動したい公募区民等によって構成され、令和3年3月現在、「麻布未来写真館」・「麻布地区政策」・「地域情報の発信」の3つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な活動を行っています。

II 分科会メンバー作成パネルの紹介

パネルの作成

パネルの作成にあたっては、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」での写真やパネル作成のために個別撮影した写真、また区民等から提供していただいた写真や資料を活用しました。

なお、「分科会メンバー作成パネルの紹介」には、分科会活動で、関係機関などの協力のもと、写真・文献等の資料により、分科会メンバーが独自に調査し、作成したパネルの内容を掲載しています。



西麻布の山坂 堀田坂 [ほったぎか]

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和49年(1974年)：堀田坂 坂上から



平成26年(2014年) 堀田坂 坂上から



昭和49年(1974年)：堀田坂 坂下から



昭和59年(1984年)：堀田坂 坂下から



平成26年(2014年)：堀田坂 坂下から



平成26年(2014年)：
堀田坂 標柱



堀田坂(ほったぎか)

江戸時代には、大名堀田家の下屋敷に向かって登る坂になっていた。昔から、渋谷駅～日赤医療センター駅を結ぶバスが通っていた。元麻布の麻布学園の生徒が渋谷方面に帰る時は、堀田坂を徒歩で登り、日赤医療センター前からこのバスを使う。近くの東京女子館の生徒と乗り合わせることをほのかに期待しつつ、坂を登る。

西麻布・南麻布の山坂 北条坂 [ほうじょうざか]



昭和 59年(1984年)：北条坂 坂上から



平成 26年(2014年) 北条坂 坂上から



昭和50年(1975年)：北条坂 坂下から



平成26年(2014年)：北条坂 坂下から



平成26年(2014年)：
北条坂より鉄砲坂を望む



平成26年(2014年)：北条坂 標柱



北条坂(ほうじょうざか)

坂下近く南側に大名北条家の下屋敷があったためにこの名がついた。三田方面から二之橋、仙台坂を登り、この北条坂を降りるのが青山方面へ行く近道であり、交通量が多い道。坂の下の部分を鉄砲坂とも言う。

南麻布の山坂 奴坂・薬園坂・釣堀坂 [やっこざか・やくえんざか・つりぼりざか]



昭和50年(1975年)：薬園坂 坂上から



昭和50年(1975年)：
釣堀坂西から東を望む



昭和50年(1975年)：
薬園坂から下る



昭和50年(1975年)：
奴坂 坂下から



奴坂(やっこざか)

仙台坂上から南へ本村保育園を通り過ぎて行くと、右手に小さな公園がある。そこから右に下る坂が奴坂である。名前の由来はこの場所の古い名前、竹が谷の小坂で「谷小坂」、薬王坂のなまりで「やつこう坂」、「奴が付近に多く住んでいた坂」の三説がある。奴坂を下るとまた坂を登ることになり、その先に本村幼稚園と本村小学校がある。昔は奴坂の上の道の向かいに駄菓子屋があった。文房具や紙も売っていた。銀玉帯統と銀玉を買った記憶がある。

薬園坂(やくえんざか)

麻布の台地から南東に下り、吉川の西之橋に達する坂。江戸時代前期にこの辺りに幕府の御薬園があったためこう呼ばれた。薬園は徳川綱吉の頃、白金御殿の拡張のため廃止され、小石川御薬園に移されたという。この付近は東から南に傾いているので日当たりが良く、草花にも適していたのだろう。麻布台地の最南端が薬園坂上と言えよう。一帯は今も静かでのんびりした感じであり、鳥の音が大きい。

釣堀坂(つりぼりざか)

薬園坂を下り始めて程なく右に小路がある。最初の道は行き止まり。二つ目が釣堀坂だ。坂は向かいで上りになり、本村小学校へと繋がっていく。付近に釣り堀が2つあったらしいが、今は1つしかない。私の記憶では、昭和39年頃は坂下の横に小さな四角い池があり、春にはオタマジャクシが大量に泳いでいた。何匹かいたたいて家に持ち帰った思い出がある。当時は、薬園坂から入って左側が石垣だったので、坂を登り下りせず、この上をつたって学校に行こうとしたが、かえって時間がかかってしまった。

六本木周辺の山坂と窪地



昭和50年(1975年):市三坂 坂下から



平成25年(2013年):市三坂 坂下から



昭和50年(1975年):市三坂 坂上から



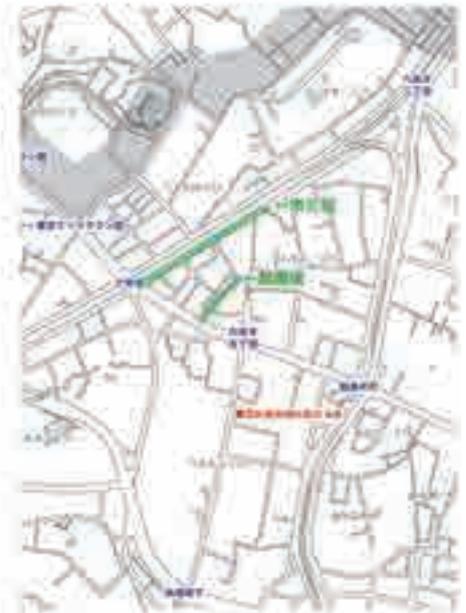
平成26年(2014年):市三坂 坂上から



昭和50年(1975年):
間麩坂 坂下から



平成26年(2014年):
間麩坂 坂下から



大正から昭和まで 今も残る古い建物



昭和 57年(1982年)頃：西町インターナショナルスクール



昭和 57年(1982年)頃：松方ハウス



昭和 57年(1982年)：安藤記念教会



平成 23年(2011年)：西町インターナショナルスクール



平成23年(2011年)：松方ハウス



平成 23年(2011年)：安藤記念教会

西町インターナショナルスクール

西町インターナショナルスクールの中心、松方ハウス(写真中)はアメリカ人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計により大正 10年(1921年)に松方正徳と妻美代子の私邸として建てられ、ここでこのスクールの創立者・松方君子や、駐日アメリカ大使ライシャワー夫人となる君子が育つ。その後、各国の公使館、大使館として使用された。昭和 40年(1965年)からはスクールの教室および教職員室として活用された。東京都認定歴史的建築物であり、改修工事は行われたが、建物は昔のままである。



平成26年(2014年)：和朗フラット

和朗フラット

麻布台の裏路地の一角に、和朗フラット一号館・二号館・四号館が戦災を免れ、今も残る。古くからこの一角はスペイン村とも言われ、一帯はモダンな雰囲気を感じ出している。和朗とは「ここに暮らす人が和やかに朗らかに過ごせるようにとの願いを込めてつけられたとの事。

竣工：昭和11年(1936年)頃
設計：土田文三郎・木通アバート



平成26年(2014年)：南部坂教会

南部坂教会

有栖川宮記念公園の向かい側、南部坂に築して建つプロテスタント教会。大正7年(1918年)竣工の木造建物。改修工事が行われ、現在も現役で使用されている。窓や入り口の形にも特徴がある。

安藤記念教会

安藤太郎が駐ハワイ総領事時代に文子夫人とともにクリスチャンとなり、帰国後、大正6年(1917年)、自宅をふくめた全てを教会として献げた。後ろの青い三角屋根のところが大正12年(1923年)に開設された付属幼稚園。建物は今でも当時の姿をとどめている。昭和 57年(1982年)には日本建築学会より大正・昭和戦前に建てられた貴重な二千棟のひとつに選ばれた。



麻布地区は、戦災や、その後の開発により、古い建物が失われている。麻布未来写真館では、現在まで残されている貴重な建物を訪れ、写真に収めている。その中から、西町インターナショナルスクール、安藤記念教会、和朗フラット、南部坂教会を取り上げた。

武家屋敷・お屋敷跡



平成 26年(2014年) | 毛利庭園



平成 27年(2015年) | 鳥居坂上



平成 27年(2015年) | 新町郵便局



平成 7年(1995年)にニッカ湯



平成 27年(2015年) | 鳥居坂下



平成 27年(2015年) | 新町小学校

六本木ヒルズ・毛利庭園付近

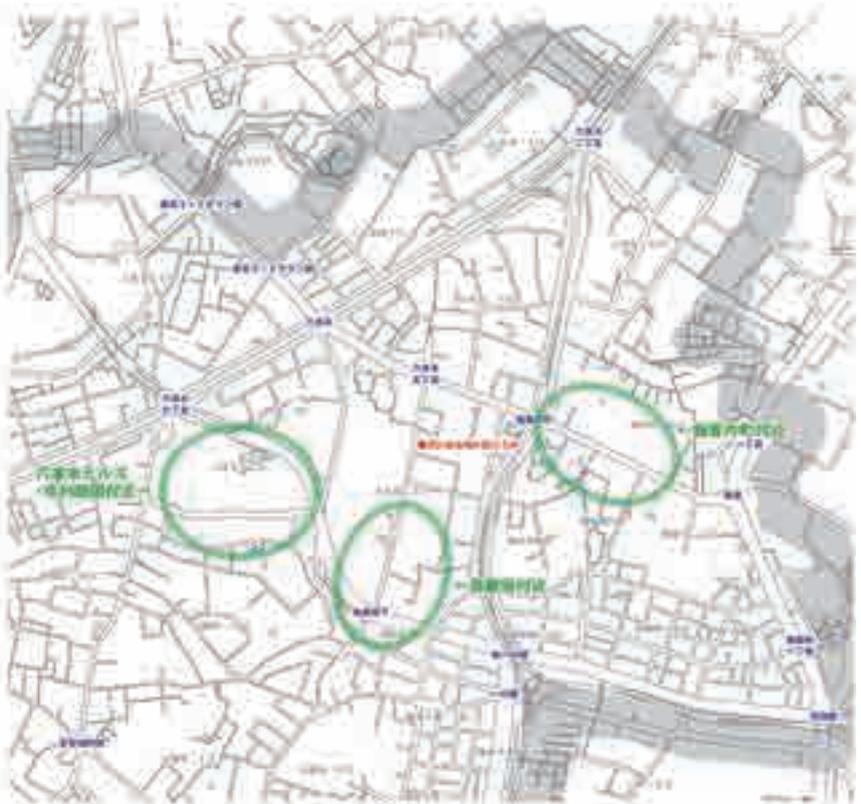
この地には長門向中藩毛利家の上屋敷が置かれた。明治20年(1887年)、増島六一郎(中央大学初代校長)の邸宅となる。昭和27年(1952年)にニッカウスキー東京工場、昭和52年(1977年)にはテレビ朝日の敷地となった。平成15年(2003年)に六本木ヒルズがオープン、現在の毛利庭園が復活した。(現在の山口県下関市一帯)

鳥居坂付近

六本木5-11.5-12の間に位置する鳥居坂の付近は江戸時代、大名や武家屋敷が並ぶ一方、坂下には町人の町が並ぶような地形的配置となっていた。かつて大名屋敷であった広大な土地が、明治維新後、財閥等により下げとなり、三井、三菱、住友の三財閥の関係者、三権部をはじめとする公家や、李王家、久松家などの名家、といった華族邸が並んでいた。震災の初期に鳥居坂右衛門元忠が坂下から見て東側に屋敷を拝借していた。また一説では米川神社のこの鳥居あるいは三の鳥居があったとも言われる。

飯倉片町付近

港区麻布台一丁目、飯倉片町交差点付近には、江戸時代、米沢藩上杉家の中屋敷があった。明治時代より現在の日本郵政グループ飯倉ビル、外務省飯倉公館・外交史料館、飯倉小学校の一帯には、紀州徳川家の邸宅があった。邸内に「南藝文庫」「南楽楽堂」が開館され、一般にも公開されていた。ここに設置されていたパイプオルガンは関東大震災後、旧東京音楽学校(現在の東京音楽大学)に寄贈され、今も同大学、楽楽堂に設置されている。



麻布にあった大学 法政大学

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和55年(1980年)「麻布校舎玄関」



昭和27~40年(1952~65年)「麻布校舎」



昭和26年(1951年)「麻布校舎」



平成26年(2014年)「法政大学跡地付近」



平成26年(2014年)「法政大学跡地付近」

中央労働学園大学 → 法政大学社会学部・法政大学工学部
麻布新堀町(現在の港区南麻布2丁目)

法政大学社会学部は昭和26年(1951年)に中央労働学園大学と合併し、昭和27年(1952年)、法政大学社会学部になった。法政大学工学部は法政大学航空工業専門学校(昭和20年(1945年))が前身で、法政大学工業専門学校を経て、昭和25年(1950年)に法政大学工学部が設置され、後に当地に移転、昭和39年(1964年)頃までであった。その後小金井市程野町に移転し、現在に至る。

法政大学社会学部(法政大学社会学部) | 法政大学工学部(法政大学工学部)



懐かしい写真 東洋英和女学院

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



明治18年(1885年)：鳥居坂下のまち並みと丘の上の東洋英和女学院



昭和39年頃(1964年頃)：六本木五丁目付近



大正5年(1914年)：現国時の校舎



明治から大正時代：旧教会(無量寿院の前身)



昭和20年代頃：東洋英和女学院付近の空撮



明治から昭和初期：外国人教団住居と幼稚園



昭和39年(1964年)：六本木五丁目付近

この写真の撮影は、当時の写真家によるもので、学校関係者によるものではありません。



明治33年(1900年)：敷島館が冒険(現在地)に完成し、本校舎



昭和11年(1936年)：暫くの間本道

南麻布と落語 小言幸兵衛



平成 22年(2010年)：稲田通りの歩道橋より、南麻布古川町へと入る斜めの小道を望む。奥には六幸ホテルビル。



平成 27年(2015年)：小道近景。手前の三角地帯には豊田マカービン東京ビル。その辺りが南麻布古川町。左手には港区立東町小学校がある。



平成 27年(2015年)：道端右側手前が南麻布古川町と考えられるエリア。

「小言幸兵衛」の舞台となった南麻布古川町は、現在の南麻布一丁目のごく小さな地域。現在の豊田マカービン東京ビルのある道通り側の一角である。表通りの交通量は多いが、一旦小道に入れば静かな町並みである。



平成27年(2015年)：南麻布古川町周辺の道鉄道対側。山内透江守屋敷跡。現在は港区立東町小学校となっている。



平成27年(2015年)：現在南麻布一丁目にて営業している温泉旅館「竹の湯」。幸兵衛さんの時代には、武士の小さな茶々が建っていた一角であったと考えられる。



平成27年(2015年)：ゆづあし(南麻布)

「小言幸兵衛(ごことやこうべえ)」あらすじ

人間、物無いはおらず、なくて七郎、あって四十八郎と言います。南麻布の古川に家を生きている幸兵衛さんという方がいました。この人は朝起きてから高層を一回りして小言を言わないと気がまぎらないという癖(小言まじりの)が癖なので、小言幸兵衛と呼ばれるくらい。

ある日、妻を倒れたいと店員を招く人が幸兵衛さんの家にやってきた。幸兵衛さんに店員を招く。口の利き方を知らないと言いに小言を言われる。幸兵衛さんはだいて店員を招くと、店員は、此所に店員がいないので一言突っ返すものの、言葉遣いを聞いて店員が「かかあがひとり」と言え、「これ家で三人も四人もいるのか、でなければ、ことさらひとりごとこわる必要はない、無難口をきくやつに利口なやつはいない」と言った小言。さらに一晩になって三年になって子供が居ないと言ると、「道端として知り身で来い、子供できるかみさんを探さるから」と幸兵衛さん。これには、店員は「かかみさん」と「知りて好かれて、好かれて好いて、のゆかも方留して出て行ってしまふ」

次いで現れた客人、百景屋と行って変わって丁寧な口の利き方で、手を借りられるかどうか幸兵衛さんに尋ねる。

幸兵衛さんは客人の物の感じ方や道草の仕方の特徴の無さから、字のありそうな様子に感心し、森田やお茶、年輪なども出すように妻を家に連れ、幸兵衛さんは再び訪ね者に断言を尋ねると「仕立て物を穿んでおきます」との返事。「仕立てさんだからひとにも、ときたな」と、お茶も話かしてしまいと絶賛する幸兵衛さん。次いで、決まらぬ茶屋構えなど尋ねる幸兵衛さんが、仕立屋に30歳の加齢で息子が知り身で居るとわかる。「この茶屋に心やが居るから貸すわけにはいらない、どんな道草があつて、この位置へごんを勧誘を押し込むのか、と言いつける。

理由のわからない仕立屋に幸兵衛さんは怒り、「このすしもがりにお茶屋のお花という19の娘がいる。始めのうちは道草があるが、毎日顔を合わせている間に心のうちで思ひ寄られる様になってくるだろう。そのうちお花のお腹がポンポンとせり出してくる。お茶さんの神の魂を種したんだ。そして、とうとう陣痛に陥れてしまう。ところが、陣痛は弱らない。「仕立屋の息子なら申し分ない」ということだ。お茶さんも思い切つて仲をやるんだな」「いえ、まだ申し込んでおけませんので、「人の命をさすものにしてどうするんたい」痛にやれ、すぐに「それは足りません、一人息子でございませうから。」「何と云うて一人娘だよ、お茶、お茶の娘が種情を張ってたんじゃ、この世にへお茶ないから、ここで心中にならぬ、心中となれば、毒が効く。」

と、幸兵衛さんの話の中では、妻が種を、道草が種を、そこで、仕立屋の娘の名を尋ねるが名前を聞かされた小言を言ひ、お茶が道草と聞かれば心甲するには陣痛だと小言を言ひ、お茶の家の道草が道草だとわかれば心中の道草をぶち壊したと小言を言ひ、最後には「貸すわけにはいかなから帰って来て」と幸兵衛さん。仕立屋は笑いて出て行ってしまった。



南麻布古川町(現在の南麻布一丁目)付近

麻布で見られた皆既月食

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



麻布副都庁付近からは東京タワー上空に皆既月食が見えた。



皆既後に残った月



六本木ホテルズで撮影する人々



麻布地区総合支庁3階より 左から「18:19頃」⇒「18:31頃」⇒「18:54頃」



六本木ホテルズより「18:55頃」



副都庁付近から見物する人々

平成26年(2014年)10月8日、曇っていないければ、日本全国で皆既月食が見えた。麻布では、皆既月食直前に曇り、皆既月食終了直後に晴れ間が出て撮影ができた。

皆さんと存続の通り、月食は太陽と地球と月が一直線上に並んだ日、ちょうど満月の時に起こる。太陽の光を地球が受けると、その反対側に地球の大きな影がでる。その影の中を月が通り抜けるとに見られるのが月食。影の中心付近を通過すると皆既月食、中心から離れた影の縁付近を通過すると部分月食として見られる。満月から次の満月まで約29.5日、ほぼ毎月起こるはずだが、太陽の通り道(黄道)と月の通り道(白道)とは約5度傾いているため、毎月起こる事はない。

この冊子は麻布副都庁エドモディファイメントプロジェクト「麻布」事務局(麻布副都庁)が作成したもので、
麻布副都庁(麻布副都庁)が著作権を保有しています。



六本木交差点

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



平成26年(2014年)4月:六本木交差点



平成26年(2014年)5月



平成26年(2014年)5月



平成26年(2014年)3月:六本木交差点



平成26年(2014年)4月



平成26年(2014年)4月



平成26年(2014年)8月:六本木交差点



平成26年(2014年)9月:六本木交差点



平成26年(2014年)10月



平成26年(2014年)10月:六本木交差点



平成26年(2014年)10月:六本木交差点



平成26年(2014年)3月



平成26年(2014年)3月



平成26年(2014年)7月:朝日神社



平成26年(2014年)7月:朝日神社



平成26年(2014年)10月



平成26年(2014年)7月

麻布十番付近

II
分科会メンバー作成パネルの紹介



平成26年(2014年)7月:パティオ十番



平成26年(2014年)2月:麻布十番駅付近



平成26年(2014年)2月:パティオ十番



平成26年(2014年)1月:一の橋交差点



平成26年(2014年)2月:一の橋交差点



平成26年(2014年)10月:一の橋交差点



平成26年(2014年)9月:麻布十番の秋祭り



平成26年(2014年)6月:麻布十番納涼まつり(パティオ十番)



平成26年(2014年)9月:麻布十番の秋祭り

麻布・桜スポット 街角のさくら

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



平成26年(2014年)：六本木一丁目付近



平成26年(2014年)：六本木七丁目付近



平成26年(2014年)：西麻布三丁目付近



平成26年(2014年)：南麻布三丁目付近



平成25年(2013年)：南麻布三丁目付近



平成26年(2014年)：南麻布四丁目付近



平成25年(2013年)：六本木五丁目付近



平成26年(2014年)：南麻布一丁目付近

麻布・紅葉スポット 有栖川の紅葉

Ⅱ
分科会メンバー作成パネルの紹介



平成26年(2014年):有栖川宮記念公園



平成26年(2014年):都立中央図書館



平成26年(2014年):有栖川宮記念公園



平成26年(2014年):有栖川宮記念公園



平成26年(2014年):有栖川宮記念公園



平成26年(2014年):有栖川宮記念公園



平成26年(2014年):麻布子ども中高生プラザ専修館跡地



平成26年(2014年):有栖川宮記念公園

麻布の散歩道

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



平成26年(2014年)：六本木交差点付近



平成26年(2014年)：六本木交差点付近



平成26年(2014年)：六本木交差点付近



平成26年(2014年)：六本木一丁目付近



平成26年(2014年)：六本木交差点付近



平成26年(2014年)：三越(六本木三丁目)



平成26年(2014年)：六本木一丁目付近



平成27年(2015年)：恵田神社(西麻布三丁目)



平成27年(2015年)：麻布地区総合支所前(六本木五丁目)



平成26年(2014年)：道徳寺通(六本木一丁目)



平成26年(2014年)：スペイン橋(六本木一丁目)



平成26年(2014年)：スペイン橋(六本木一丁目)



平成26年(2014年)：麻布三丁目付近



平成26年(2014年)：麻布永楽町付近



平成26年(2014年)：集合場(麻布谷一丁目)

麻布で見つけた

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



まつげの雪だるま



お寺のかわいい雪だるま (左)徳正寺 (右)大塚寺



とんがり帽子の雪だるま



ウサギの雪だるま



遠山の雪だるま



空き缶入れの雪の国



栗村の長メダカ



新江原町のけものみち



被災地から来て大切にされている犬



有明川記念公園のアオダマシヨウ



森の電線にバケビシム



森形のカマゲエ



有明川記念公園の甲虫がたがる木



森の蝶



料亭のカメがゆんひり

この中にもお話をしたいから自づつと、麻布で見つけた雪だるまの紹介をさせていただきます。

麻布 昼と夜

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



六本木七丁目付近 第1回六本木ハロウィンパレード



六本木ヒルズから東京タワーを望む



六本木七丁目付近 第1回六本木ハロウィンパレード



六本木五丁目付近 ハロウィンの夜



六本木ヒルズから東京タワーを望む



六本木五丁目付近 ハロウィンの夜



麻布十番駅付近



けやき橋



けやき橋



麻布十番駅直営店



六本木五丁目、ソアビル前



六本木交差点付近

二六四(六本木)は麻布を代表するエリアにあり、麻布の中心地(2014年)

最近の麻布

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



西麻布いまいみプラザ等複合施設



麻布信賢園



麻布図書館



麻布保育園



麻布保育園



麻布図書館



麻布子ども中高生クラブ管理会施設



旧三河台中学校敷地掘削現場



旧三河台中学校敷地掘削現場



六本木安全安心家建

旧三河台中学校敷地掘削現場



東京六大学野球連戦パレード(四神町)

二丁目(赤坂区)方面まで一歩の所にあり、(地図)伊武町(2014年)

筈小学校[こうがいしょうがっこう] 校舎



昭和 11年(1936年)：南から見た校舎

この頃は建てたの建物ばかりで、昔ながらの古い家も大人気でした。普通教室だけでなく、たくさんの特設教室もありました。



明治時代：脇門(左)・表門(右)

学校の門は表・脇と二つに分かれていて、表の正門からは男子が、脇の門からは女子が登校しました。門だけでなく、玄関も校舎の両側に二つあり、けた箱も別々になっていました。前後するときも男子組と女子組に分かれていました。



昭和 45年頃(1970年頃)



昭和初期：木造校舎と鉄筋校舎



昭和 51年(1976年)：
改築中に使われた仮設校舎



筈(こうがい)小学校は、東京市耳尋常高等小学校として明治40年(1907年)に開校しました。2階建ての木造校舎でした。大正14年(1925年)末に、東・南・西の三方に、鉄筋2階(一部3階)の校舎が落成し、その後しばらく木造校舎と併用されました。昭和10年(1935年)には北側にも鉄筋校舎が完成し、東に開けたコの字型の鉄筋校舎は、大戦の戦火をくぐり抜けて昭和49年(1974年)まで使われました。現在の4階建て校舎は、昭和51年(1976年)に完成したものです。

平成 28年(2016年)：現在の校舎

筭小学校[こうがいしょうがっこう] 授業



明治43年(1910年)：男子、理科の学習



明治45年(1912年)：兵式訓練の様子

筭小学校が誕生して数年経ったころの写真です。校舎は木造で、校庭には砂利が敷きつめられていました。体育の時間には、学校に用意してある木で作った「てっぽう」を使って、兵式訓練も行われていたようです。



大正時代：女子、歴史の勉強



大正9年(1920年)：女子の体操の授業

体育の時間でも体操着や運動靴には着替えず、着物を掛(はかま)のまま体育をしたそうです。



昭和6年(1931年)：
屋内体操場屋上での運動



昭和47年(1972年)：
筭公園(理科学習)

大正時代までは、男女とも木綿の羽織を着て、袴をはいていました。男子は坊主頭、女子は髪を腰までのばして多くはリボンをつけていました。昭和に近づくと、男子は半ズボン、女子はスカートの洋服に変わってきました。昭和45年(1970年)に学校の隣に青公園ができると、公園の一部を使って理科の学習などが行われました。

算小学校[こうがいしょうがっこう]の周辺 外苑西通り

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和34年(1959年):霞町(西麻布)交差点方面を見る
算小学校西側の大通り(外苑西通り)は、昔は半分が路面電車の
通る軌道でした。



昭和38年(1963年):霞町(西麻布)交差点方面を見る
地下鉄日比谷線の工事風景です。この写真から1年後、東京
オリンピックの年に霞ヶ関～恵比寿間などが開通しました。



昭和47年(1972年):右上の写真とほぼ同じ地点



昭和23年頃(1948年頃):西から見た算小学校



昭和42年(1967年):登校風景 日赤病院下

中段右の写真では、中央奥の電柱が立っているところが現在の
外苑西通りです。右側の人物は富井宗雄先生。先生は明治41年
(1908年)算尋常小学校に赴任され、大正11年(1922年)に校長と
なられました。以来およそ26年間、大戦中の困難な時代をさん
で昭和23年(1948年)まで、算小学校のために尽くされました。

筭小学校[こうがいしょうがっこう]の周辺 西麻布交差点

Ⅱ
分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和47年(1972年):西麻布交差点(筭坂 坂下から)



平成9年(1997年):西麻布交差点



(左)昭和50年(1975年):筭坂 坂下から、(中)昭和30年代:霞町交差点、
(右)平成26年(2014年):西麻布交差点(六本木方面)



昭和52年(1977年):西麻布交差点(六本木方面)



平成9年(1997年):西麻布交差点

©2016 東京都立総合教育センター 東京都立総合教育センター 東京都立総合教育センター 東京都立総合教育センター 東京都立総合教育センター

最近の麻布 けやき坂・六本木ヒルズ周辺

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



3月:けやき坂



5月:けやき坂



3月:さくら坂



12月:けやき坂



初音:けやき坂



16月:けやき坂



12月:けやき坂



6月:六本木ヒルズ



8月:六本木ヒルズ



12月:六本木ヒルズ

Check out the sound "けやき坂イロミエーション" in Pioneer Global Sounds!
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?id=4326>

Check out the sound "六本木ヒルズの真夜中" in Pioneer Global Sounds!
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?id=4860>

Check out the sound "H! Waterfalls" in Pioneer Global Sounds!
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?id=4338>

本音ラボは、パナソニック株式会社にて2011年に Pioneer Sound Lab として、ネット上の音響家から募集した10名
 Pioneer Sound Lab (Pioneer Global Sounds) を創り、そして、誰でも簡単にパナソニックのサウンドデザインツール「Sound Lab」で、
 様々な音「Sound Lab」を試し、自分の好きな音「Sound Lab」を体験していただけます。
 音「Sound Lab」のURL: <http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/> 音「Sound Lab」のURL: <http://www.pioneer.jp/soundlab/globalsounds/>
 Pioneer Sound Lab のURL: <http://www.pioneer.jp/soundlab/>

麻布の緑 麻布地区の公園と街路樹

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



六本木一丁目付近



麻布駅前



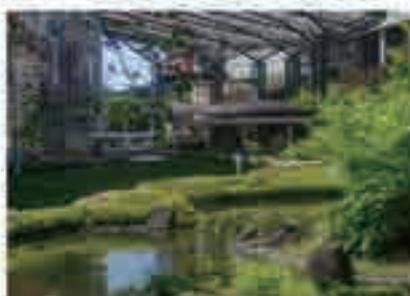
六本木一丁目付近



毛和公園



六本木ヒルズ付近



毛和公園



麻布町屋記念公園



有栖川宮記念公園



公園遊場(花森館)



麻布青山公園



麻布青山公園



麻布青山公園(ヘリポート側)



天眞亭(雑司の森)

Check out the sound "麻布の森のコンサート" in Pioneer Global Sounds!
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?id=4008>



Check out the sound "Aoyama Park" in Pioneer Global Sounds!
<http://pioneer.jp/soundlab/globalsounds/?id=3625>



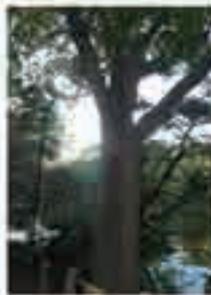
麻布地区の緑は、パノラマ撮影機が並ぶ通り通り、Pioneer Sound Labに収録。そしてその音声を収録から公開まで、Pioneer Sound Lab (Pioneer Global Sounds) が担当。詳しくは、麻布区、麻布区がランダムサウンドラボのホームページ「Sound Lab」をご覧ください。
 本サイトは「Sound Lab」を運営し、毎日更新の音声を提供しています。
 ●Pioneer Sound Lab: <http://www.pioneer.com/soundlab>
 ●Pioneer Sound Lab Facebook: <https://www.facebook.com/pioneer.soundslab/>
 ●Global Sounds Platform: <http://www.global-sounds.com/global-sounds/>

麻布の緑 名勝・巨木等

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



麻布町歴史公園のクヌギ



麻布町歴史公園のクヌギ

まちの花

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



ムラサキシキブ



むくげ



ペニペニトチノキ



ソマユ

梅の葉



トサシモツケ



ハジ

葉ボシンの花



アジサイ



チェリーセージ



青真珠



キイカカマサ



ムラサキツメクサ



カハニア



カマサ



オウゴンナツメ

開市以来市民館では、メンバーで専ら数回テーマを決めまち歩きを実施している。今回はテーマにあわせて市民館前にも集まり、討議したポイントカメラ付きに歩いて行く。途中で歩きながら撮影をしていると、テーマ以外にもメンバーが興味をひかれた「建物・石・彫刻・いさよの・緑地」などの写真が大量に集まった。そんな写真を持ち寄り、展示場にも掲載した。このパネルには、まち歩きで見つけた、花をまとめた。

（左から右へ）むくげ、アジサイ、チェリーセージ、ムラサキツメクサ、カハニア、オウゴンナツメ

いきもの

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



アオサギ



コサギ



アオサギ



カウカモ



ヒメダマ



カウカモ



セトの蜻蛉



アマクローヒヨウモンのおス



アマクローヒヨウモンとオスの雄



カウカモの群



カウカモのログ



カウカモ



カウカモの群



カウカモ



カウカモ

【このパネルは、分科会メンバーが作成したもので、内容は、分科会メンバーの作成したものである。】

麻布のサイクル(自転車・原付など)



酒田町付設



麻布運動場付設



西麻布付設



六本木七丁目



アークヒルズサウスタワー



元麻布付設



西麻布付設



西麻布付設

港区自転車シェアリング

平成26年(2014年)10月1日から始められた港区自転車シェアリングは、区内での24時間利用可能な電動アシスト付自転車のレンタルサービスです。区内のサイクルポートは平成28年(2016年)2月現在、28か所あります。

さらに利用範囲を広げる、港区、千代田区、中央区、江東区の4区での「4区連携による広域相互利用実験」が平成28年(2016年)2月1日から行なわれています。

有料(1回会員)

最初の30分 150円

延長料金 100円/30分毎

※利用には会員登録が必要です。
月謝会員・1日パス等もあります。

天現寺



平成28年(2016年):本堂

本尊・毘沙門天の生まれが寅年寅月寅日であったことから、本堂前には副
読一對の虎の像がある。



平成28年(2016年):本堂前の虎の像



平成28年(2016年):山門



平成28年(2016年):庭園内の手水鉢

刻まれている文字から、浜松城主で、天保の改革を行った
水野越前守忠邦から贈られたものと推定される。



平成27年(2015年)

さりげなく置かれた小さな仏像。



平成28年(2016年)

こんなかわいい置き物も。

天現寺は享保4年(1719年)に建立された寺廟で、本尊として毘沙門天の像をまつている。
毘沙門天は多門山ともいわれる四天王のひとり、七福神のひとりにも数えられている。情
愔の表情。左手に宝塔を掲げ、右手に矛を持ち、甲冑で身を固めた姿で知られている。天現寺
の本尊はケヤキの木造で、高さは約1メートル、平安後期の作と推定されている。

天現寺(静岡県浜松市東区天現寺)の歴史と文化を伝えるパネルの紹介



平成27年(2015年):百蕉の句碑

はじまりは麻布から 海軍観象台



明治16年頃(1883年頃):海軍観象台

海軍観象台は、今の麻布台2丁目にある日本経緯度原点(国土地理院)の地にあった。
 明治5年(1872年)11月に麻布農舎の戸沢部と石井部の一部を買い入れ、小規模ながら施設を設立。これが海軍観象台の発端となった。その後、アメリカ、フランス、メキシコの観測の申し入れを受け、明治7年(1874年)の金星の太陽面通過の観測を共同で行った。この観測は日本の東京、横浜、神戸、長崎で同時に行うことにより、今まで正確にわかっていなかった、太陽と地球との距離を正確に割り出すことができた(1天文単位)。また、観象台の経緯度を正確に測量し日本経緯度原点とした。



明治7年(1874年):金星日面通過観測



明治25年頃(1892年頃):東京大学東京天文台

明治21年(1888年)16月、この観象台の地、麻布に東京天文台を設立。海軍省水路部の天象観測および内務省地理院業務の天象観測、編纂事業ともに東京天文台に移管。
 大正12年(1923年)9月 関東大震災が発生。火災はまぬがれたものの、施設および観測機器に大損傷を受け、これを契機に三鷹への移転が急速に進んだ。



昭和34年頃(1959年頃):
 東京大学理学部天文学教室と日本経緯度原点

麻布の天文台用地に残された建物・観測器材は東京大学理学部天文学教室の所蔵となり学生の講義・実習にあてられた。昭和20年(1945年)5月戦災で焼失。その跡にはバラックが建てられ、昭和35年(1960年)4月の本部移転まで、天文学教室はこの地に存続した。
 上の写真の中⑩に日本経緯度原点が見られる。



日本経緯度原点の原点数値は、明治25年(1892年)に東京天文台の経緯度観測の観測台である子午線を中心に定められた。その後、大正12年(1923年)の関東大震災により子午線が崩壊したため、昭和36年(1961年)にその位置に金属標を設置し、日本経緯度原点を再現した。

平成27年(2015年):日本経緯度原点

©2016 国土院 地理院 国土地理院 国土地理院 国土地理院 国土地理院 国土地理院 国土地理院 国土地理院 国土地理院

はじまりは麻布から 日本ラグビー創始の地

II

分科会メンバー作成パネルの紹介

2015年ラグビーワールドカップで日本は3勝という快挙を成し遂げた。

日本ラグビーは1899(明治32)年秋、麻布仙ヶヶ原で慶應義塾の塾生による練習で誕生した。伝授したのはこの年の1月に慶應義塾の英語講師として来日していたE・B・クラークと田中輝之助である。二人とも英国の名門ケンブリッジ大学の出身。田中輝之助は麻布市兵庫町の原敷に住んでいた。



クラーク氏



中央白服左がクラーク氏、右が田中氏



江戸時代



明治42年頃(1909年頃)



現在の南麻布一丁目

練習場の場所は、現在の南麻布一丁目付近、旧町名では竹谷町である。

歴史ラグビー百年史に地図があるが、これによると、現在の韓国大使館(当時は松方邸)の南側である。つまり仙台坂下付近であるが、この辺りにラグビーができる平地があるのかを歩いて調べてみた。

江戸時代の古地図では青い○付近になる。元々仙台坂の下層敷であり、明治頃も腐ったのもかもしれない。その後は民家や小さい工場が立つようになった。(その頃の風景は高岩塚の小説「わが舞の島のここには」に詳しい)。

右の写真①は仙台坂下方面を写している。平地ではあるが、写真左手には崖があり、それ程広くはない。ラグビー場程の広さは無いが練習場があったのかもしれない。

右の写真②は崖上(西側)から仙台ヶヶ原と思われる場所を写した風景である。



①南麻布一丁目 仙台坂下方面



②崖上から

【参考文献】『日本ラグビー百年史』ラグビー協会編、1999年。『高岩塚の島』高岩塚編、1999年。

麻布の音楽 南山ジャズバンド



平成27年(2015年)：南山ジャズバンド(小中学生)：パティオホリホリでのコンサート



平成27年(2015年)：アザバン



平成27年(2015年)：アザバン



平成27年(2015年)



平成27年(2015年)：バババガ十番



平成27年(2015年)：練習風景



平成27年(2015年)：練習風景

Check out the sound "大人のJAZZ祭り" in Pioneer Global Sounds!
<http://pioneer.jp/soundlab/globalbands/7d-6685>

Check out the sound "AZABU de mamba!" in Pioneer Global Sounds!
<http://pioneer.jp/soundlab/globalbands/7d-6684>

Check out the sound "小学生JAZZバンドを盛り上げる!" in Pioneer Global Sounds!
<http://pioneer.jp/soundlab/globalbands/7d-6683>

※本ページは、JAZZ麻布地区協議会(以下「JAZZ麻布」)の協賛により、Pioneer Sound Labの提供により掲載されています。Pioneer Sound Lab (Pioneer Global Sounds) によって、最新の音楽イベントやライブイベントの情報を提供しています。Pioneer Sound Lab (Pioneer Global Sounds) によって、最新の音楽イベントやライブイベントの情報を提供しています。Pioneer Sound Lab (Pioneer Global Sounds) によって、最新の音楽イベントやライブイベントの情報を提供しています。

南葵^[なんき]文庫及び南葵^[なんき]楽堂と南葵^[なんき]音楽文庫①

II

分科会メンバー作成パネルの紹介

麻布新舎の地に、明治・大正時代に紀州徳川家の屋敷が置かれていた。

その時期の当主は徳川茂承(もちつぐ)、頼徳(よりみち)、頼典(よりきた)3世代にわたっていたが、特に第15代頼典、第16代頼典親子は近代日本における図書館、そして日本初の音楽図書館を設立し、先駆的な存在として意義深い活動を行った。彼らの活動と意義、その道を通る。

明治41年(1908年)、徳川頼徳侯爵邸の一部、現在の麻布小学校の地に設置された南葵文庫が一般公開された。これは公立図書館の設立が徐々に増えていく中で、私設しかも個人による設立は稀有な例であった。[同年11月に京都市立白比砂図書館が開館、翌明治42年(1909年)東京市立深川図書館が開館。]

それに先立つ明治29年(1896年)、頼典は、伏見宮尚愛親王の随従としてロシア皇帝ニコライ2世の戴冠式に参加し、その後ケンブリッジ大学に2年間学ぶ。その英国滞在中及び帰国時の欧米諸国の視察により、図書館が重要な役割を果たしている様を見て、図書館建設及び運営を強く決意したのであった。帰国後の明治31年(1898年)には家蔵の書物の整理を指示し、読書館設立準備を始め、公開に至ったのであった。



平成28年(2016年):麻布小学校

南葵文庫についての研究を続け、「南葵文庫 目字間・耳字間」という著書にまとめた坪田東高子氏によれば、南葵文庫の意義として

1. 先祖伝来の蔵書を一般公開した事
2. 図書館活動を通じ、一般の人々の啓蒙に努めた事
3. 理想的な図書館建築を具現化した事
4. 利用者の意見を積極的に取り入れて図書館運営を行った事

以上4点を挙げている。南葵文庫と由来を同じくする徳川家康御遺本(おゆざりぼん)を基礎とする経徳徳川家康左文庫の公開はさらに数十年先の事であり、また当時の社会状況(子供の就学率、女性の地位、図書館数及び設備)を考えると、運営利用者の意見を聞く読書会や読書会、児童会など社会教育的イベントを開催し、きわめて先駆的な取り組みであった。

頼典の息子頼直は大正3年(1914年)、ケンブリッジ大学に入学し、音楽理論を学ぶ。

音楽堂の建築に熱意を持ち、帰国後に紆余曲折を経て、大正6年(1917年)、南葵文庫本館の南側に起工。翌大正7年(1918年)に竣工した。これは日本国内ではコンサートホール内にパイプオルガンを設置した初めての例であった。また、大正天皇の即位大礼を記念して「御大礼奉祝記念館」とも称された。

さらに南葵楽堂は、大正6年(1917年)に頼直が購入したカミングズコレクションを中心として、「南葵音楽家文庫」を地下1階に備えていた。これは日本における初の公共音楽図書館であった。ベートーヴェンの自筆譜、バッハ、ヘンデル等の手稿が含まれており、貴重な資料となっている。

南葵文庫については以下のサイトを参照

麻布地区の地域情報誌「ザ・AZABU」第17号
http://www.city.minato.tokyo.jp/azabuchikama/azabu/koho/documents/vol17_p01_p06.pdf



南葵楽堂については以下のサイトを参照

麻布地区の地域情報誌「ザ・AZABU」第19号
http://www.city.minato.tokyo.jp/azabuchikama/azabu/koho/documents/vol19_the_azabu.pdf



南葵文庫及び南葵音楽図書館(文庫)共に貴重な図書館であったが、大正12年(1923年)9月1日に起きた関東大震災により運命が変わった。東京帝国大学の図書館が震災後の火災により、図書館の蔵書をほぼ消失した。頼典はこの事態を憂慮し、大学図書館復興のため南葵文庫の蔵書一切を寄贈した。東京帝国大学に寄贈された蔵書は9万冊余り、質・量ともに同大学図書館の根幹をなすものになったという。建物については旧館部分のみ移築され、それ以外は取り壊された。その旧館部分は大塚の徳川別邸に移築された後、改築されVILLA DEL SOL(太陽の館)と名付けられた。その後、旧野村財閥の創始者の手に渡り、取り壊しが検討された後、熱海老舗旅館「蓬萊」の尽力により取り壊しを回避され、長らく別荘として使用された。現在は民間ホテルに譲り、廃旧も可能である。

※本ページに掲載のURLは平成28年度版のものです。
 1. 南葵文庫 目字間・耳字間(著者:坪田東高子) 発行:2014年11月 発行所:ザ・AZABU編集部 http://www.city.minato.tokyo.jp/azabuchikama/azabu/koho/documents/vol17_p01_p06.pdf
 2. 南葵音楽家文庫(著者:南葵音楽家文庫) 発行:2018年11月 発行所:ザ・AZABU編集部 http://www.city.minato.tokyo.jp/azabuchikama/azabu/koho/documents/vol19_the_azabu.pdf

麻布のナイトカルチャー、今昔①

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



平成28年(2016年):「スクエアビル」跡

スクエアビル

映画「サタデー・ナイト・フィーバー」の大ヒットにより、世界的なディスコブームが巻き起こった1970年代後半から、90年代前半にかけて、六本木には数多のディスコがあった。なかでも、地下2階から地上10階までほとんどがディスコ、というスクエアビルは名所的な存在で、どの店も週末になると人であふれていた。

80年代後半からのバブル景気の崩壊に伴ってディスコブームも終焉を迎え、多くのディスコは閉店した。

スクエアビルにあった主なディスコ

キャスレル、アーマーズ・マーケット、ギゼ、サンバグラフィ、スタジオワン、チャクラマンダラ、ネベンタ、アーツ、キグニス、ホースレディオ、パレンティノス、等々、など。

六本木 PIT INN

昭和52年(1977年)、外苑東通り沿いのビルの地下1階に喫茶店。フュージョン界の二大ギタリスト、リー・リトナー、ラリー・カールトン、日本を代表するサックスプレーヤー、渡辺貞夫をはじめ、山下達郎、吉田美奈子、坂本龍一、高中正義、上田正樹、柳ジョージ、桑名正博、桑名靖子、金子マリなど、数々たるアーティストがライブを行ってきた。

夜になると、ビルの角にあった入り口の上部に赤く浮かんで見えた「PIT INN」のロゴは、灯りのともった東京タワー同様、街の風景の一部だった。

平成16年(2004年)、ビル建て替えのため、六本木PIT INNは27年の歴史に幕を下ろした。



平成28年(2016年):「六本木 PIT INN」跡



昭和58年(1983年):
インベリアル六本木



ジャズ、ロック、ソウル、ラテン、シャンソン...さまざまな音楽に彩られたレストランやバー、ライブハウス、演劇、ミュージカル、映画のレイトショーなど、麻布には、ネオンの輝きとともに幕を開ける豊かなナイトカルチャーがある。青春時代にディスコサウンドにときめき、最先端のクラブやライブハウスでエネルギーや熱気を体感した。千んな思い出をもつ人も少なくないかもしれない。

オイトカルチャーを通して、ひと昔前の麻布をふりかえり、今を見つめてみた。

麻布十番のモニュメント

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



麻布十番商店街



麻布十番商店街



麻布十番商店街



麻布十番



麻布十番商店街



麻布十番商店街

麻布十番商店街



麻布十番商店街



麻布十番商店街



麻布十番商店街



麻布十番商店街

麻布十番商店街では、メンバーでつくり出したテーマを決め、まち歩きを実施している。朝、テーマにあわせて集合場所に集まり、計画したルートをカメラ片手に歩いて行く。边走边まわり撮影をしていると、テーマ以外にもメンバーが興味をひかれた「建物・店・動物・いまもの・植物」などの写真が大量に集まった。みんな写真を持ち寄り、写真館で再構成した。この1年では、麻布十番商店街を中心に、様々な作品があつめた。

この冊子は、文芸春秋出版の「麻布十番」に掲載された写真をもとに制作された。

古川橋 小川書店周辺

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和30年代頃(1955~1964年頃):古川橋 小川書店



昭和30年代頃(1955~1964年頃):古川橋 小川書店

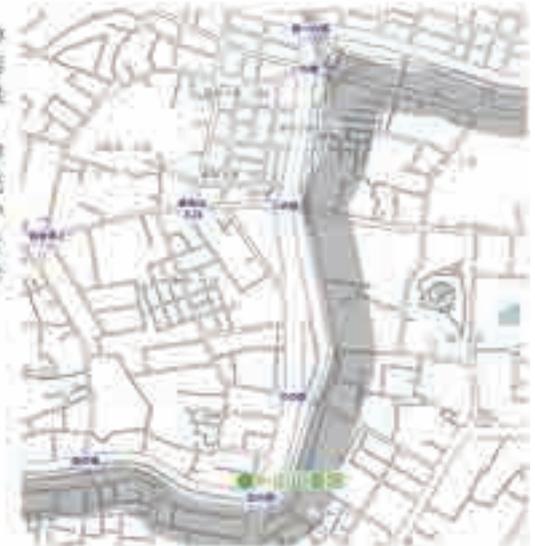


平成28年(2016年):古川橋交差点付近



昭和30年代頃(1955~1964年頃):小川書店の店頭

地域情報紙「ザ・AZABU」の取材に関連して、小川書店さまより古い写真の提供を受けた。
昭和30年代・40年代から参考書や教科書ガイドが充実していて、中学生の頃から新学期になると、お金を握りしめ、何度も自転車を飛ばして買いに行った。



古川橋交差点周辺地図 ©2016 株式会社 古川橋交差点周辺地図制作委員会

旧鍋島邸—移築され、今に伝わる近代和風建築②



平成28年(2016年):旧鍋島邸・妙壽寺客殿全景
手前の平屋建て部分は移築の際に足されたもの

鍋島邸から和断を譲り受け、昭和2年(1927年)に移築した妙壽寺は、関東大震災当時、深川區江司(現江東区堀江)に所在。一帯は甚大な被害を受け、妙壽寺は本堂をはじめすべてのお堂を喪失。無山の地に移転し再建にとりかかったのは、震災の年の12月であったと伝えられている。当初、和断は佛壇として移築されたが、本堂の役割も果たすなど、再建の第一歩を築いた建物であった。その後、東京大空襲の犠牲をもくぐりぬけた建物は、長らく佛壇として使われたのち、平成7年(1995年)、佛壇を別棟で新築して以後、今日まで客殿として使用されている。妙壽寺客殿は明治時代中期の和風建築の面影を残す貴重な建物として、平成20年(2008年)、世田谷区指定有形文化財に指定された。



平成28年(2016年):
南西から見た旧鍋島邸・妙壽寺客殿



平成28年(2016年):空と木々を映すガラス戸



平成28年(2016年):2階、高欄つきの縁側



平成28年(2016年):
2階の縁側からガラス戸越しに見る
木々の緑



平成28年(2016年):妙壽寺山門

※「妙壽寺客殿」は通常非公開です。

〒158-8501 東京都世田谷区北沢1-1-10 妙壽寺
TEL:03-3493-1111 FAX:03-3493-1112

麻布の緑の壁

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



六本木七丁目



元麻布三丁目(以前とも)



六本木七丁目



六本木五丁目(麻布図書館の壁面緑化*)



六本木六丁目(六本木高校)



六本木五丁目(麻布保育園)



麻布三丁目



西麻布一丁目(EXシアター六本木)



西麻布二丁目



西麻布四丁目(左:2011年、右:2016年)

西麻布三丁目

*壁面緑化は、文字通り建物などの壁を、水や木で緑化すること。多くの場合、美観の他に植物を絡めつけるための経費が思われ、メンテナンス(手入れ)が行われる。壁面緑化と同様に、美観性の向上、大気浄化、暑熱対策の軽減など、さまざまな効果があるようだ。また、壁面緑化に比べると人目につきやすいので、美観の向上にも役立つ。麻布では少しずつ壁面緑化の導入、区の施設でも、近年あいついで採用されている。

※麻布区では、麻布区立施設に限り、壁面緑化の導入を推進している。

麻布の実り

II
分科会メンバー作成パネルの紹介



カキ：六本木四丁目



ザクロ：元麻布二丁目



麻布台：麻布台一丁目



ハチイオナモミ



西麻布三丁目



キンカン：西麻布一丁目



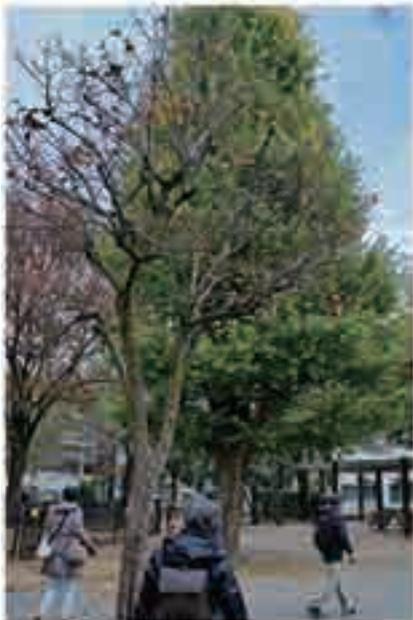
オリーブ：六本木六丁目(六本木ヒルズ)



ミカン：西麻布三丁目



ホオズキ：久国神社 ブドウ：元麻布三丁目



カキ：西麻布三丁目



パッションフルーツ：元麻布二丁目

麻布はビルと高層道路がむしめくコンクリートジャングルだと書いている人も少なくないようだ。しかし、緑地帯から外れて路面に入ると、まだまだ緑が溢れている。
 ね、そうした街を歩いていると、あちこちで色づいた植物の実を現がける。カキや柿は顔に生じて、賑わいところでブドウやザクロ、オリーブなどを目にする。カキやブドウの熟した甘い味は、顔と唇裏の表皮に入りだ。



グレープフルーツ：六本木五丁目

このパネルは、東京エレクトロニクス社(株)の協賛により制作された。

旧飯倉小学校(校舎)

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



明治27年頃(1894年頃):最初の校舎
(森元町)



昭和3年(1928年):
改装された校舎(中之橋付近)



昭和14年頃(1939年頃):
中之橋から見た校舎



昭和33年頃(1958年頃):旧飯倉小学校 80周年記念 講堂完成



昭和33年頃(1958年頃):
旧飯倉小学校正門(土器坂側)



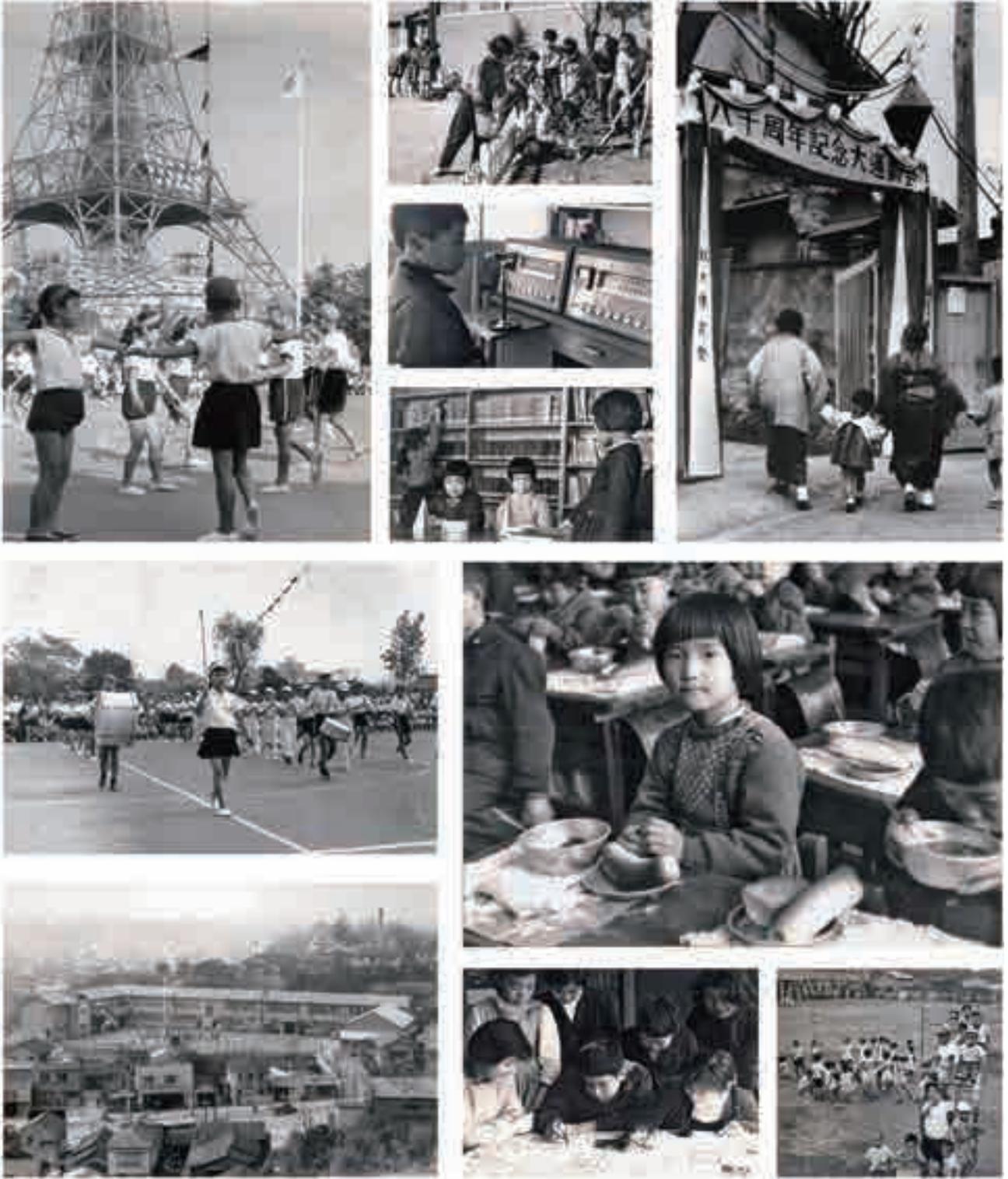
昭和41年頃(1966年頃):旧飯倉小学校校舎全景 プール完成後



飯倉地区歴史資料館(旧飯倉小学校)資料提供
土器坂側旧飯倉小学校校舎全景(昭和41年頃)

旧飯倉小学校

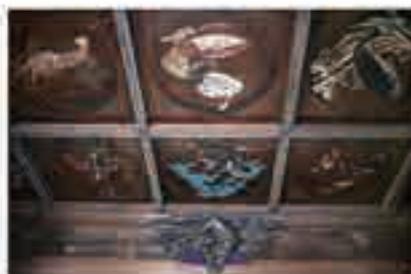
II 分科会メンバー作成パネルの紹介



旧飯倉小学校メモリアルスペースさまから、多くの写真をご提供いただきました。その写真の一部をご紹介します。

天井画 久國神社

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



久國神社
 六本木二丁目1-16にある神社。創設された年月は不詳、皇
 室内の田千代田村紅葉にあったが、太田道灌の江戸城築城
 の際、寛政6年(1465年)に城守として、堀池に遷された。そ
 の後、志津より南田口久國(鎌倉時代の名刀士)作の刀を奉
 遷されたといわれ、久國稻荷神社と称するようになった。
 永禄3年(1560年)、その地が公用に属したので、寛保元年
 (1741年)に現在地に遷座し、昭和2年(1927年)10月25日
 に改称されて、久國神社となった。
 久國神社は、明治7年(1874年)の火災、昭和20年(1945年)
 の空襲により被災した。現在の社殿は、昭和28年(1953年)
 に再建されたものである。再建時に描かれた50枚の天井
 画は、今も鮮明である。
 祭神は、貴船権命(うがのみたまのみこと)、穀物の神様で
 ある。境内には、猿田彦神社もある。社宝の刀は、現存して
 いる。
 港七福神では、久國神社は布袋様である。

「社宝の刀」は、非公開です。
 社宝の刀は、非公開です。

この冊子は東京文化財研究所の発行によるもので、内容は東京文化財研究所の責任で掲載されています。

柿 久國神社

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



麻布未来写真館ではメンバーで年に数回テーマを決めてまち歩きを実施している。今回は、麻布と赤坂の境界をめぐる中、途中でこちらの神社に伺った。たまたま神主さんご一家が柏取りをされていた。麻布つながりで、様々なお話を伺い、最後にはとてもおいしい柿をいただき、再会を約束した。

震災で焼けた社殿を再興された時に、有名画家(浮世絵)に天井画を依頼した時のご苦労や、大切に維持されている様子も伺いながら、色鮮やかな天井画の写真を撮影させていただいた。



三軒村赤坂区美観文芸センター(4階)に30〜40分程度に柿久國神社を撮影したパネル

六本木一丁目(谷町JCT)周辺



昭和42年(1967年):谷町ジャンクション建設中
建設中の路々間ビル、ホテルオークラ本館、豊南坂教会のどがった三角屋根も見える。



昭和63年(1988年):アーカヒルズ(空撮)



昭和61年(1986年):谷町ジャンクション付近



昭和63年(1988年):アーカヒルズ(空撮)

三井物産株式会社提供資料より転載(2017年) © 2017 三井物産株式会社



東京タワー周辺

Ⅱ
分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和38年(1963年):東京タワー(空撮)



昭和39年(1964年):東京タワーからの風景(赤羽橋方面)



平成5年(1993年):東京タワー(空撮)

この資料は東京タワー建設50周年記念事業の一環として作成された。



平成26年(2014年):東京タワーからの風景(赤羽橋方面)



東京府立第三高等女学校と仰光寮①

II

分科会メンバー作成パネルの紹介

現在の六本木六丁目(旧麻布日ヶ窪)、区立六本木中学校のある場所には、かつて東京府立第三高等女学校(府立第三高女)があった。同校は現在の東京都立駒場高等学校の前身であり、同地の歴史を振り返ってみた。

「東京府立第三高等女学校」

府立第三高女は、明治34年(1901年)に創立され、翌35年(1902年)4月より東京府麻布町東洋英和学校校舎の一部を間借りして授業を開始した。同年8月に日ヶ窪に校舎が一部落成・移転し、9月には授業を開始した。



明治35年(1902年)：
府立第三高女 麻布日ヶ窪校舎
『東京都立駒場高等学校60周年』より



昭和57年(1982年)：
港区立城南中学校(後の港区六本木中学校)



平成29年(2017年)：港区立六本木中学校



東京都立駒場高等学校：〒113-8501 東京都港区駒場1-1-1
TEL: 03-3463-1111 FAX: 03-3463-1112
東京都立六本木中学校：〒106-8501 東京都港区六本木6-1-1
TEL: 03-3463-1111 FAX: 03-3463-1112
東京都立第三高等女学校：〒106-8501 東京都港区六本木6-1-1
TEL: 03-3463-1111 FAX: 03-3463-1112

東京府立第三高等女学校と仰光寮②



平成29年(2017年):仰光寮

「仰光寮」
「仰光寮」は、香淳皇后が皇太子(後の昭和天皇)妃に内定された大正7年(1918年)に、その教育の場として久遠宮家邸内に創設開所として建てられ、「御花園館」と呼ばれていた。時を経て、昭和8年(1933年)、当時麻布にあった府立第三高女に下賜され、「仰光寮」と名付けられた。昭和20年(1945年)の空襲で校舎は全焼したが、教育や生徒たちの防火活動により仰光寮は体育館と共に延焼を免れた。翌21年(1946年)、同校は目黒区大橋の旧兵舎に移転されたが、仰光寮は麻布に残り続け、昭和26年(1951年)に同窓会の募金活動により、目前へ移築された。「御花園館」として建てられてから100年を目前とした現在も都立駒場高校の同窓会によって大切に、保存されている。

「府立第三高女の思い出」

橋田美津子さんは昭和7年(1932年)、府立第三高女へと進学し、赤坂松崎の自宅から3年通った。その思い出が、著書『山路を越えて』に書かれている。一日一庭の第三高女の敷地は変化に富んでいて、正門、テニスコート、運動場と三段になり、こと以上の運動場には道灌山といって、種々の樹木におおわれた築山風の山があった。昔の古墳だそうである。校庭のおちろこちろには桜があり、四月上旬花ざかりの頃、全校によるお花見があり、昼食後和泉屋の餅菓子が配られた。ことに、入学最初のお花見など春爛漫の校庭で餅菓子をいただきながら、夢心地であった。



橋田美津子さん：
府立第三高女の制服姿。
胸には校章もつけている。

「(前を挿えて)
〈著書:橋田美津子著〉より」

府立第三高等女学校及び仰光寮に関する年表	
明治34年(1901年)	11月14日 〇創設
明治35年(1902年)	4月24日 〇開校(東尾尾尾町東洋製糖学校各の一層を借りて授業開始) 川中3クラス、2,3年2クラス 計280名
	8月20日 〇校舎一部落成し、日々22名へ増える
明治36年(1903年)	〇本校舎にて授業開始
明治38年(1905年)	〇創立5周年式(卒業生 65名)
大正7年(1918年)	●香淳皇后が皇太子(後の昭和天皇)妃に内定。 ●御町(後の久遠宮邸)内に「御花園館」が建てられる(後の「仰光寮」)
大正10年(1921年)	●久遠宮家と共に御花園館が地味区大橋4丁目に移転
昭和8年(1933年)	●御花園館が府立第三高女に下賜され、「仰光寮」と名付けられる。
昭和20年(1945年)	〇空襲で校舎が全焼。 〇和泉屋及び体育館は延焼を免れる。
昭和21年(1946年)	〇目黒区大橋の旧兵舎へ移転
昭和25年(1950年)	〇東京府立駒場高等学校と校名変更
昭和26年(1951年)	〇11月31日 ●都立駒場高校へ移築

〇府立第三高等女学校に関する事項
●仰光寮に関する事項

本ホームページは、東京府立第三高等女学校(以下「第三高女」といふ)の創立100周年記念事業の一環として、本校の歴史を振り返り、その発展の経緯を明らかにし、また、本校の教育活動の成果を広く公表し、社会との交流を図ることを目的として作成されたものである。本ホームページの著作権は、東京府立第三高等女学校に帰属する。本ホームページの制作費は、東京府立第三高等女学校に帰属する。本ホームページの制作費は、東京府立第三高等女学校に帰属する。本ホームページの制作費は、東京府立第三高等女学校に帰属する。

西麻布交差点



昭和33年(1958年)：桜田神社大祭(霞町交差点)

昭和33年(1958年)に撮影された西麻布交差点(当時の名前は霞町交差点)の写真をご提供いただいた方、メンバー様で拝見すると、写真右手側に、特徴的なイチョウの大木を見つけました。

もしやと思い、井川(ちうがいがわ)の霊園(あんきん)に行っている。外苑西通りと並行した裏通りを抜けて行くと、築地寺(はんにょうじ)に横穴にそびえ立つ独特のイチョウの大木が見つかった。

樹齢約200年と推定されるイチョウの大木は、過去の富田・町史を振り返ると、これまでも、これからも西麻布の歴史をみまもりつづけていくことだろう。



平成29年(2017年)：西麻布交差点



平成29年(2017年)11月：築地寺の観音

このパネルは公開されている古い写真について、写真提供：井川正氏

麻布図書館の歴史 昔の思い出

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和29年(1954年) 旧麻布図書館 玄関



昭和38年(1963年) 旧麻布図書館 玄関



昭和29年(1954年) 旧麻布図書館 閲覧室の様子(1)



昭和38年(1963年) 旧麻布図書館 閲覧室



昭和29年(1954年) 旧麻布図書館 閲覧室の様子(2)



昭和38年(1963年) 旧麻布図書館 こども室

かつて、南山小学校に麻布図書館があった時、南山小学校に通っていた方からコメントをお寄せいただきました。

とても小さな図書館でしたが図書室には温かみがありました。

しかし、当時は冷暖房はなかったので夏は暑かった。天井から降り下げられたコビニアリの虫の扇風機でよいでした。

新図書館になった時の衝撃はエアコンでした。個人的には子ども向けの所蔵が五部、100冊、1人1冊を誇ったこと、最後に読んだのは児童書の『自棄の歌なんが聞こえない』。夢中で読んでいたおぼえがあります。

このパネルは公開されている古い写真について、写真提供：港区立麻布図書館

麻布図書館の歴史 うつりかわり



昭和38年(1963年)旧麻布図書館 外観全景



平成29年(2017年)現在の麻布図書館

麻布図書館は、明治44年(1911年)9月、東京市立麻布図書館開館として、美山小学校校内に創設されました。その後、大正3年(1913年)、市立麻布図書館と改称。昭和2年(1927年)、麻布通商小学校校内へ移転した後、昭和6年(1931年)、独立館舎として現在の美山小学校のプールの辺りに開館が完成しました。

昭和18年(1943年)、区立麻布図書館と改称。戦争のため一時閉鎖しましたが、戦災をまぬがれ、昭和22年(1947年)、空襲に被害が被害され、昭和23年(1950年)10月、区立麻布図書館と改称されました。しかし老朽化に伴い、昭和48年(1973年)に現在の敷地に移転しました。その後、建て替えのため、平成21年(2009年)2月28日に閉館。平成28年(2014年)3月1日にリニューアルし、現在の新しい麻布図書館が開館されました。その際、三田一丁目には麻布図書サービスセンターがつけられていました。

新しい図書館は、開館以来、読書習慣を確立し、読書、読書に子育てからは、乳幼児一時預かりが広がっています。麻布を併設しています。



(写真左)リニューアル前の麻布図書館の外観 (写真右)リニューアル前の麻布図書館の読書室 (昭和49年度版「今日の港区」より抜粋「上之点とも」)



リニューアル前の麻布図書館内の様子(2点とも)
(港区立麻布図書館改館に係る基本構想・基本計画より抜粋)



完成予定のない麻布図書館の創想 (『富澤みほと』昭和48年3月10日号)より抜粋(裏下段4点とも)



このパネルは2022年「参考資料1」(昭和49年3月)011号、「港区の麻布図書館改館に係る基本構想・基本計画」、「昭和49年度「今日の港区」」
写真提供など協力：港区立美山小学校、港区立麻布図書館

麻布の防災

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



麻布の空を飛ぶ東京消防庁麻布消防団のヘリコプター



防災訓練会場となった六本木中学校。平成29年度は1,000人を超える方が参加。



麻布運動場新設式野球場



防災訓練：放水を体験する参加者



防災訓練の会場に設置されたマンホールトイレ



防災地図と消火器、防災水筒



各区に掲示された海拔標示

このパネルは掲載されている写真に2017年写真撮影：平成29年(2017年)

久國神社(六本木二丁目)



戦前の社殿



戦後、再建された社殿



平成28年(2016年) 現在の社殿



昭和13年(1938年) 29人が犠牲にあつたがけ崩れの全貌



久國神社下の民家



修復中の屋



崖崩れの被害にあつた民家



修復現場のトラック



久國神社から臨海風景を望むことができます



久國神社



平成28年(2016年) 久國神社

このパネルは掲載されている古い写真について、写真提供の久國神社(六本木二丁目)に

麻布の花ごよみ(1)

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



3月 コバシ(六本木ヒルズ)



4月 サクラ(本町公園)



3月 エボンスイセン(六本木ヒルズ)



4月 サクラ(六本木ヒルズ・さくら坂上から)



4月 サクラ(六本木ヒルズ・さくら坂公園)



4月 ナアツボスミレ(青柳川(皇居公園))



5月 ペコパノキ(西麻布一丁目)



4月 モモ(南麻布三丁目)

麻布の花ごよみ(2)

II
分科会メンバー作成パネルの紹介



3月 オオアサセイワ(元麻布二丁目)



6月 ヲカキ(麻布台一丁目)



6月 アジサイ(西麻布三丁目)



3月 ノカンゾウ(六本木七丁目)



5月 ヒルカオ(六本木三丁目)



10月 ハイビスカス(西麻布五丁目)



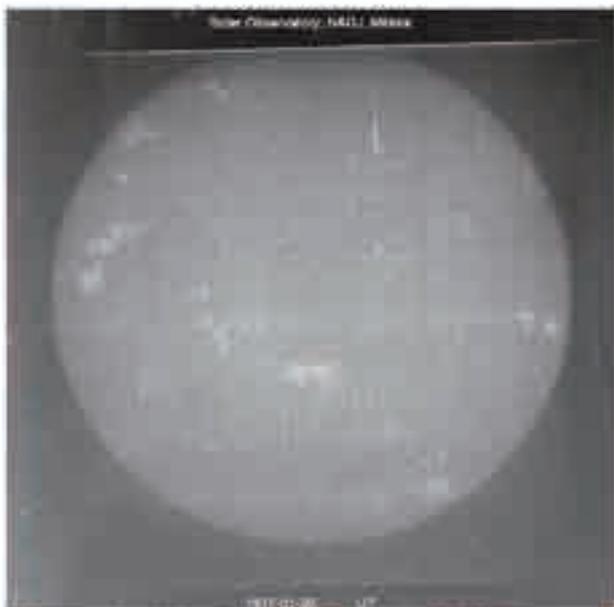
3月 オキ(元麻布二丁目)



3月 ランタナ(西麻布三丁目)

はじまりは麻布から 初めての太陽写真観測

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



大正6年(1917年)1月20日に撮影された太陽全画像



平成29年(2017年)1月21日に撮影された太陽全画像



保存されていた太陽全画像の乾板とその保管木箱



太陽フレア望遠鏡(国立天文台)



スペクトロヘリオグラフ

この写真が掲載されている古い写真について資料提供(国立天文台・太陽観測所)

現在、日本経済産業省が管轄している場所(港区南布田二丁目)は、かつて旧海軍研究台が所在した地であり、明治23年(1890年)、その跡地に東京天文台が設立された。その東京天文台で、日本で初めての太陽写真観測(カルシウムK線)が行われたのは大正6年(1917年)1月19日のことで、関東大震災が起きた大正12年(1923年)まで、この地で観測が続けられた。

本パネル左上の写真は、大正6年1月20日に東京天文台で撮影された太陽全画像であり、現在の国立天文台に長く保管されていた写真乾板の中から見つかったものである。

周辺の手荒れ化のため観測が次第に困難になり、東京天文台は大正13年(1924年)に北多摩郡三鷹村大沢(現三鷹市)に移転。その後、昭和49年(1974年)まで観測は続けられた。このカルシウムK線による太陽全画像は、スペクトロヘリオグラフという装置を用いて撮影を行ってきた。

その後、一時的中断していたが、平成27年(2015年)3月、太陽フレア望遠鏡のカルシウムK線-太陽全画像観測装置を用いて観測を再開。平成29年(2017年)には、初めての観測から100年を迎えた。

国立天文台の東京の前身に当たるカルシウムK線という観測(1917年)が行われてから、この写真の100周年を記念し、本館の周辺にこの写真の撮影場所を再現することを予定す。

我善坊[がぜんぼう]の桜

II
分科会メンバー作成パネルの紹介



藤原が築いた藤本坂(かんざさか)の桜

麻布台一丁目の一部を成す我善坊は、南側と北側の台地に築かれた谷地で、その地帯のとおなじ帯は「我善坊」と呼ばれてきた。
二階建ての本番家屋が軒を並ぶ森ながらの風景は、古き良き昭和の時代を彷彿させる。
そんな我善坊には、新築木こそないが、この地を愛し、30年、60年と住み続けてきた人びとが、その美観を楽しみに見守ってきた桜の本が点在している。



我善坊の公園(1) - 西久保八幡神社の境内でお花見を楽しむ人びと



藤川藤三記念公園の桜、公園内から撮影



藤川藤三記念公園の桜、狭い所から伸ばした枝に花を咲かせる姿は特別に映り、入びとから愛されている



麻布小学校校門前の桜、新築前に花を咲くらせる子どもたちを撮影するように映っている



高い所から見た藤本坂の桜

我善坊[がぜんぼう] さまざまな横顔

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



我善坊を貫く直通り



我善坊の屋上に建つ藤形船渠跡



藤形渠の風景



国東川児童会館の屋上の原野から見たJR東一丁駅前の風景



路地の突き当たりに見える



路下に建つ家屋



表通り



三年坂の上から我善坊を望む様子



三年坂の降り場から見た風景



横川御三郎記念公園の様



葺で覆われた家屋



路地裏



東三宮公園の噴水の跡



国東の門前通りに立つ地蔵の礎



電柱上にある国東川の石



直通り



マンホール、排水口標、合流標のふた、それぞれに刻ひた標記が時代を知る

このパネルは公開されてから既に26年、写真撮影は平成29年(2017年)

我善坊[がぜんぼう] 高い所から

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



写真左側の一角が我善坊。2階建ての木造住宅や低層マンションなどが建ち並び、昔ながらの街並み。



(写真右) 丁目のマンション群よから撮影。右側に広がる我善坊の様子がよくわかる。



外苑東通りに対して建つ都市型複合施設をサテライトビルズから撮影。



この写真は公開されている写真に比べて、写真撮影は平成29年(2017年)

麻布とアート - 六本木アートナイト -

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



山本洋子(のびんランド)「アジアの花」-六本木文芸会場のほかの会社が存在する裏手に設置していた。(写真左) 日中の時計台(写真右)



リム・ソクチャン(リア、ネット・スワロー)他「アジアの鐘堂」-平表坂の駐車場、路弁の上乗合は観覧感に浸ることができた。(写真上) 日中の炎駐車場(写真下)



国立高度医療センター国立高度医療センター24時間人間時計「アジア鐘」-六本木ヒルズ天ノスタジオへ搬入は「24時間人間時計」に挑戦した。(写真上) 日中のノースタワー、工事中であった。(写真下)



ナウン・ラン・チン「クイン」のまつり-六本木西公園、会場内では即興舞臺上演、オリジナルのサルサパフォーマンス、アーティストトーク、ワークショップなどが開催された。(写真上) 日中の六本木西公園(写真下)



ゾロ・フェーブル「アラ」-来一レースビル、機械仕掛けでリボンが宙を舞っていた。(写真上) 表の00のオープンを行っている空き店舗(写真下)

麻布地区には数多くのアートに関する施設(美術館やアートギャラリー)が存在し、また遠隔地にも施設が存在している。一方で一定範囲内のみ観覧することができるアートも存在している。六本木アートナイトもその一つである。

六本木アートナイトは平成21年(2009年)3月に始まり、六本木を舞台に現代アート、デザイン、音楽、映像、パフォーマンス等の多様な作品を両面から展示せ、非日常的な一夜限りの体験をつくり出すイベントである。平成29年(2017年)は、「未来ノマソリ」というテーマのもと、コアタイム(メインとなるインスタレーションやイベントが開催される時間)が、9/30(土)17:27(開演)～19/1(日)13:00(日の出)と設定された。

このイベントでは、アートナイトの作品を何点かピックアップし、日中の展覧と対比させた。

開催:六本木アートナイト(公式)http://www.roppongiartnight.com/2018/

このパネルは公開されている写真に基いて、右側欄順に、平成28年(2017年)9月30日～10月1日、日中欄部分は、平成30年(2018年)11月。

麻布とアート - Counter Void -

II
分科会メンバー作成パネルの紹介



〔写真左〕富田新館、はまき館のイルミネーションが映り込んだ「Counter Void」。〔写真右〕はまき館のイルミネーションと「Counter Void」。〔左右とも2010年1月撮影〕



左の写真と同じ角度からの日中の様子（2018年1月撮影）



左の写真と似た角度での日中風景（2018年1月撮影）



「Relight Days」再び見た「Counter Void」(写真3点とも、2017年3月撮影)

写真撮影に丸山陽一氏、リライトプロジェクト(2017年撮影)の協力、
写真提供:リライトプロジェクト(2017年撮影分の協力)

現代アーティスト宮藤真由氏により、テレビ朝日本社ビル前に設置された作品「Counter Void」。「光と空」をテーマに2003年に制作された高さ5m、全長50mの巨大な光のパブリックアート作品である。昼間は輝く作品だったが、2011年の東日本大震災の2日後、被災された方々への哀悼の意を込め、作家本人により消灯された。

その後、再点灯に向けての様々な活動を包括する「光の再生」プロジェクトを経たのち、2015年より再点灯へのプロセスの設計が「Relight Project」に引き継がれ、2016年と2017年の3月11日～13日に無償に「Counter Void」を再点灯させる「Relight Days」リライトフェスティバルが実施された。2018年3月11日から3日間のRelight Days 2018が、Relight Projectとしての最後の再点灯となった。

パネル上夜夜長40枚が震災前年の制作風景、パネル中央の左および中央、右側の写真はRelight Daysに於いて再点灯された所作。

「Relight Project」は、市民の生き方や人間のあり方を考えるプラットフォームを目的とするアートプロジェクト。特に3日間の限定で「Counter Void」を再点灯する「Relight Days」の開催のほか、社会福祉財団の寄成を行なう市民大学「Relight Committee」の運営に取り組んでいる。主催：東京都、アートカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）、NPO法人インビザブル

旧住友会館と住友麻布ハイツアパートのある風景－泉ガーデン今昔①



平成8年(1996年)：旧住友会館
後方に見えるのは住友麻布ハイツアパート



平成8年(1996年)：旧住友会館の庭園



平成8年(1996年)：旧住友会館の庭園
中央の灯籠は現在も緑地の一角に佇んでいる(右写真参照)

このパネルは刊行されている古い写真(上段)の中・利用状況について
写真集「住友麻布ハイツアパート周辺(平成8年11月)」(住友設計) 撮影：建築家写真事務所より転載

地下鉄有楽町線六本木一丁目駅から緑地帯の緑が「泉はし」を渡ると、静かな緑地帯が広がっている。その一角に、かつてこの地に建った旧住友会館の礎がひっそりと立っている。

空に向かって飛躍するようにカーブを描いた屋根が特徴的なこの建物は、昭和40年(1965年)、住友不動産別荘部の跡地に商業施設として建てられたもので、旧会館に準拠する形で建てられた住友麻布ハイツアパート併存、長らく、街の風景として進行く人びとから愛されてきた。

旧住友会館、住友麻布ハイツアパートは昭和から平成にかけての発展期に併存し取り壊され、一時は平成14年(2002年)、新しいまち、泉ガーデンとして生まれ変わった。

現在、「泉はし」の向こうに広がる緑地帯は、住友不動産別荘部から旧住友会館へと受け継がれてきた遺留の緑を保全意識したもので、当時の歴史をしのぶことができる。

本パネルでは、その印象的な外観から、いまも癒やしむ所が寄せられる旧住友会館、住友麻布ハイツアパートの姿をさまざまな角度から紹介したい。



平成8年(1996年)：
空から見た旧住友会館と住友麻布ハイツアパート



平成30年(2018年)：
泉ガーデンの緑地に
その姿を留める古い灯籠



平成30年(2018年)：
泉ガーデンの緑地の一角
に立つ旧住友会館の礎

旧住友会館と住友麻布ハイツアパートのある風景－泉ガーデン今昔②



平成8年(1996年)：
庭園に囲む旧住友会館



平成8年(1996年)：
住友麻布ハイツアパート



平成8年(1996年)：旧住友会館とスベ
イン大使館の間の道
神谷町方面に向かって撮影



平成24年(2012年)：高い所から見た泉ガーデンの緑地
緑地中央の通路を挟んで右上に見える長方形の建物は住友家が蒐集した美術品を
保存、展示する美術館、泉屋博物館分館



平成30年(2018年)：泉ガーデンの緑地
とスペイン大使館の間の道
神谷町方面に向かって撮影



このパネルは掲載されている古い写真(上段3枚)について、写真集『麻布ハイツアパートと泉ガーデン』(平成30年11月)の地裁計ノ図(旧)：建群建築写真事務所より転載

あのころの六本木六丁目－玄碩坂[げんせきざか]

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和50年(1975年)：現土からの緑地
奥の鉄骨の建物は城市高校。
その右は建設中の三田建設ビル



中央は現土のテレビ朝日通りに面していた竹皮屋ビル



昭和59年(1984年)：坂下から
玄に区が設置した線柱が立つ



坂上のテレビ朝日通りをゆく群りの神輿



坂のながぼと 玄に曲がると妙極寺があった



日本たばこ産業の社宅から玄碩坂方面を望む

六本木ビルズが建設される前のこと。テレビ朝日通りから森中十番のほうへと東側に向かって下る。狭く急な坂道があった。稲田神社の由緒長い御所九りが坂の入り口で、街区が高付た木製の欄干には、このように書かれていた。「玄碩坂。遠くは玄碩といふ傳が往んでいたので、坂名にしたといひ傳えている。坂下といふところへおり坂で、坂下坂とも呼んだ。江戶時代の地図にものっている古い坂だった。

くおくとおとあつた道きたどって坂下まですると、右側は築地餅屋の上り斜道に商家が階段状に建んでいた。建物のあいだには細い階段が通っていた。その上には、現在もまだくら坂の案内に書かれている。

坂下から十番に上がると、左に大きな金魚屋さんがあった。昭和のころは魚が釣り堀になっていて、週末には子どもたちが集まった。その釣りがかつて「魚下(やぶした)」と呼ばれていたようだ。最近の石垣の下からは湧水が湧きだして水溜まりとなり、メダカを釣ることもあった。今日も利用場となっている場所もそうだが、昔は、一帯の地場のあちこちに遊んだ家が湧いていたのだろう。

このパネルは公開されている古い写真について、写真提供：森江株式会社(1980年代～1990年代の写真) / 写真たごき(1980年代)の森江氏、写真提供：森江氏(1980年代)

あのころの六本木六丁目一日ヶ窪[ひがくぼ]



早稲田・本郷から五反田へがんせきがけ方面を望む。右は美和村A別荘レジデンス



中央の白川通りは早稲田・本郷



公園・早田・塚住宅



早田・塚住宅
今ではあまり見かけなくなった公衆電話ボックスが立つ



昭和55年(1980年)11月日ヶ窪駅新駅舎の入口
今がには乃木大村生誕地の石碑が立っていた



元ニッパワキスキー東京工場跡地にあった池田
昭吉の毛利自家の位置にあたる



池田昭吉の墓



平成27年(2015年)に六本木ヒルズが竣工されるまで、六本木六丁目の地割一帯には、多くの民家が立ち並んでいた。その様子を伝えるのがこれらの写真である。

かつてこの地域の大部分は麻布区日ヶ窪(またひがくぼ)町と呼ばれ、一部は麻布区日ヶ窪(またひがくぼ)町と呼ばれていた。それが1960年代に住居表示化により町名変更が行われ、六本木六丁目となったのである。今日さくら坂公園に立つ乃木大村生誕地の石碑があった北日ヶ窪(北日ヶ窪)の地名は、古い町名に由来する。

このパネルに掲載されている古い写真については、写真提供(左から右へ)に(株)日ヶ窪(1980年代～1990年代の写真)、(株)日ヶ窪(1980年代)写真提供(株)日ヶ窪氏、写真提供(株)日ヶ窪氏

あのころの六本木六丁目－現六本木ヒルズ周辺

II

分科会メンバー作成パネルの紹介



- ① 東日ビル
- ② WAVE
- ③ 蕨本会館
- ④ 六本木公園
- ⑤ 城南中学校
- ⑥ 豊泉寺麻布別院
- ⑦ テレビ朝日本館
- ⑧ 元ニッカウキスキー
東京工場
- ⑨ 公園北日ヶ窪住宅
- ⑩ 元アルゼンチン大使館
- ⑪ スウェーデンセンタービル
- ⑫ 宝タクシー
- ⑬ 城南高等学校
- ⑭ 日本たばこ産業
六本木六丁目アパート
- ⑮ 旧麻布保健所
- ⑯ 藤安太郎商店(鑑賞魚問屋)
- ⑰ 北日ヶ窪児童遊園
- ⑱ 秀和材木町レジデンス



このパネルに掲載されている写真について、びんね館(森ビル株式会社)1980年代～1990年代の提供

六本木ヒルズは六本木六丁目街地の再開発により、平成15年(2003年)4月にオープンした。上の写真は、既存建物の解体工事が始まる以前に上空から撮影された六本木六丁目である。北側は六本木通りが走る台地だが、南側は窪地で周囲とかなり高低差があった。この低地はかつて「日ヶ窪」、「藍下」などと呼ばれていた。窪地の南縁にあった五旗塚(けんせせぞか)という塚と10数メートルの段差は再開発工事で手が加えられ、今日見られるようにならなくなった(「けやき道」、「さくら坂」に基を置いた)。

再開発以前からこの地にあった石塚などは、六本木ヒルズの敷地に位置するさくら坂公園に移設された。北日ヶ窪児童遊園(写真では⑬)にあった乃木大持生誕之地の碑と元アルゼンチン大使館(写真では⑩)の石造りの門柱2本である。これらは、今はさくら坂公園の南西の隅に見えることができる。ちなみに、さくら坂公園は六本木公園(写真では④)と北日ヶ窪児童遊園を統合してつくられたそうだがここには旧麻布保健所が建っていた(写真では⑮)。

境内にあった城南中学校と城南高等学校は、近隣校との統合などを経て、それぞれ六本木中学校、六本木高等学校となり今日に至っている。

色の別は、再開発以前の六本木六丁目周辺(濃い緑)は現状の地図(薄い緑)を継いだものである。

麻布いろいろ

II
分科会メンバー作成パネルの紹介



港区麻布住宅センターのハイム六本木

東京タワー

毛利庭園

六本木ヒルズから撮影



夜 西麻布は真っ白



六本木ヒルズから南麻布方面を望む



六本木ヒルズ展望台からの富士山



道の六横丁境

一の橋交差点



六本木ヒルズのパビリオン(ピエロ)



南麻布一丁目 霞の街



南の六本木けやき坂

六本木ヒルズのパビリオン



メトロハット横の工芸台(オーターと壁)



六本木けやき坂を走るコミュニティバス(けやきバス)



デジタルサイネージが並ぶかに



雪 静寂の西麻布

このパネルは掲載されている写真に2017年4月/写真撮影は平成29年度(2017年度)

変わりゆく麻布 この10年 六本木三丁目(1)

II

分科会メンバー作成パネルの紹介

港区麻布地区協会支所による「麻布未来写真館」の事業は、平成21年度(2009年度)に始まり、平成30年度(2018年度)に10年目を迎えた。麻布地区の古い写真を収集する一方、現在の麻布を未来に残すため、定点写真等を撮影してきた10年間の活動の成果は、パネル展、活動報告書、区のホームページなどを通して公開されている。

この10年のあいだに、麻布にはさまざまな変化が見られた。古いものがいつの間にか姿を消し、新しいものが次々に出現する。一めまぐるしく変貌をうつろえるのが今日の麻布である。さまざまな場所で再開発が行われ、新しいまちが誕生した。そのひとつがここに紹介する六本木三丁目である。



平成15年(2003年)6月:
六本木ヒルズから見た六本木三丁目(着工前)



平成30年(2018年)6月:
六本木ヒルズから見た六本木三丁目(完成後)

地下鉄駅に隣接する六本木三丁目東地区は、市街地再開発事業として、平成23年(2011年)に都市計画決定、平成25年(2013年)に建築工事が着工された。

左上の写真に見るように、この地区には、かつて日本国研本社、ライオンテーマ六本木アクセス(旧六本木プリンスホテル)、ハローワーク池田などの建物があつた。それらを解体した跡地(約2.7ヘクタール)に、地上43階の事務棟、地上27階の住宅棟、広場などがつくられ、平成28年(2016年)にオープンした。あわせて、なだれ坂などの周囲の風景も記録・整備された。



資料:港区公式ホームページ「六本木三丁目東地区第一種市街地再開発事業」<https://www.city.tama.tokyo.jp/>

変わりゆく麻布 この10年 六本木三丁目(2)

II
分科会メンバー作成パネルの紹介



六本木七丁目－東京ミッドタウン西交差点周辺の変遷①



平成30年(2018年):東京ミッドタウン西交差点
東京ミッドタウン、乃木坂方面の遊歩道から六本木七丁目角地を望む。

平成19年(2007年)3月、防衛庁(現防衛省)跡地に東京ミッドタウンがオープンすると、外苑東通りを挟んで南側に、六本木七丁目側の交差点角地一帯に建ち並んでいたいくつものビルやマンションが取り壊され、開発が進められた。

現在、その場所には近代的な複合ビルが建ち、同ビルの間に位置する天祖神社の参道から本器を拝む風景も一変した。

国立新美術館へと続く道は拡張され、交差点の西側壁には「東京ミッドタウン西」という表示板が付けられている。

本パネルでは、西交差点の角地に位置する六本木七丁目の一角を中心に、真摯の変遷をふり返ってみよう。



平成10年(1998年)頃:六本木七丁目側の交差点角地
東京ミッドタウンがオープンする以前の風景。

当時、交差点の角地に建っていたレンガ色のマンション(左の写真)は1階が店舗で、上部に緑色のテントが付されたスペースには、一時期、東南アジア産のものと思われる輸入雑貨や衣類などを扱う店が出店していた。六本木と乃木坂を行き来する際、ときおり立ち寄った思い出がある。

尚かないが、現在東京ミッドタウンが建つ場所には建築界の広大な敷地を囲む塀が続き、その半ほどに正門があった。



平成21年(2009年):六本木七丁目側の交差点角地
一帯に建ち並んでいたビルやマンションが取り壊され、六本木ヒルズ(中央)が見えている。



六本木七丁目－東京ミッドタウン西交差点周辺の変遷②



平成23年(2011年):六本木七丁目側の交差点角地
現在、複合ビルが建つ場所には2階建の外国車のショールームが暫定的に設けられていた。



平成29年(2017年):交差点から国立新美術館へ向かう道路
拡張され歩道も広い。正面に見えるのは政策研究大学院大学の建物。



平成29年(2017年):東京ミッドタウンを六本木七丁目側、乃木坂寄りの歩道から望む
防衛庁(現防衛省)が所在した当時、敷地に隣接する乃木坂方面の角地に老舗のソウルバーがあった。日が暮れると、店名をかたどったネオンが細長い店の入口の上で光を放っていた光景が思い出される。



平成30年(2018年):複合ビルの南に位置する天祖神社の参道から見た風景



平成23年(2011年):天祖神社の参道から見た風景



昭和12年当時の地図によると、敷名、東京ミッドタウンが建つ場所には歩兵第一旅団が所在。皇外苑東通りには市電が走り、東京ミッドタウン西交差点にあたる場所は「驛前」という名称の停留所が設けられていたことがわかる。



現在の六本木七丁目7～8番地にあたる三角形の土地は、文久2年当時の地図によれば「麻布土町」と称し、「凡例」から、神明宮(天祖神社)、長徳寺のほかは町屋が所在していたことがわかる。

変わりゆく麻布 この10年 六本木六丁目の複合施設

II

分科会メンバー作成パネルの紹介

六本木ヒルズ開発のこの地域には、かつて旧本会館、区営住宅などいくつかの建物があった。それらを解体した跡地に建設によって複合施設が生まれ、平成29年(2017年)8月に駐車場、10月には区営住宅等がオープンした。
この新たな施設には区営住宅、サービス付き高齢者向け住宅、障害者グループホーム、機械式自転車駐車場、コミュニティスペース、共益村警察員住宅、防災備蓄倉庫が設けられている。



平成25年(2013年)11月:旧本会館 玄関



平成25年(2013年)11月:旧本会館 入口



平成30年(2018年)8月:完成した施設



平成25年(2013年)11月:旧区営住宅



平成25年(2013年)11月:西から見た旧区営住宅



平成25年(2013年)11月:着工前

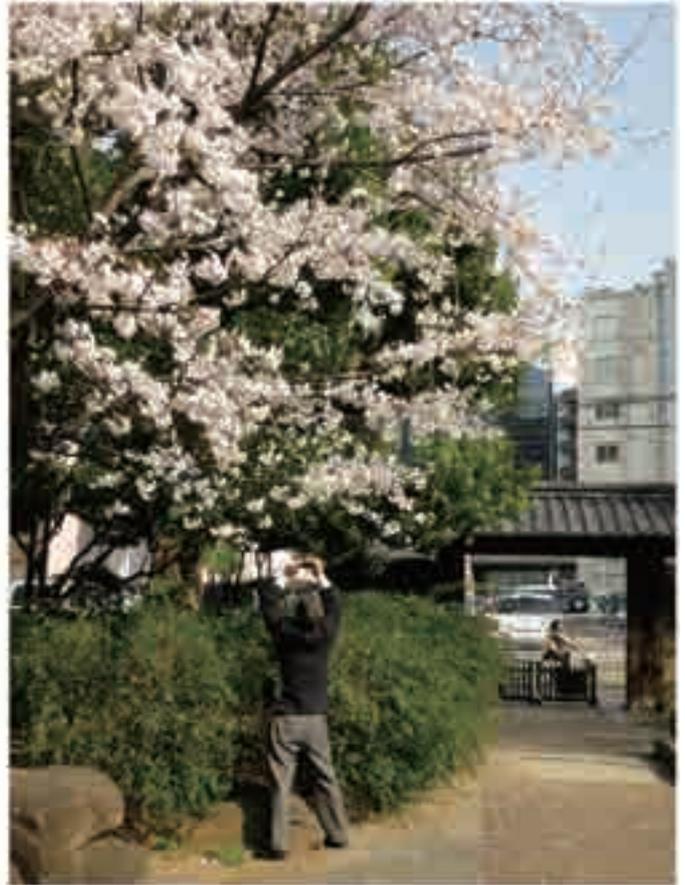


平成27年(2015年)7月:工事中



平成30年(2018年)8月:完成後

変わりゆく麻布 この10年 六本木西公園



【写真左右とも】平成23年(2011年):公園入口の門があった南側の通りは、江戸時代の切絵園にも描かれている古い道。



【写真左右とも】平成23年(2011年):全面改修以前は、緑豊かな公園だった。



【写真左右とも】平成30年(2018年):現在の公園には、消防団格納庫・防災資器材収納庫も建つ。

六本木西公園は、郵政省の官舎跡地を、港区が昭和54年(1979年)に購入して新設された。南側の入口は、上の写真に見るような武家屋敷のような門構えだった。平成28年(2016年)に全面改修されて、裏下段の写真に見るような姿に変わり、災害に対応した機能(マンホールトイレ)がまどベンチ、地下雨水貯留槽などが整備された。

変わりゆく麻布 この10年 麻布警察署

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



平成31年(2019年):新しい麻布警察署 入り口、夕暮れ時



平成31年(2019年):旧麻布警察署 全景

実際にはこの位置からでは高速道路に遮られて旧麻布警察署は入り口付近しか見えない。この写真では、複数枚の画像から、建物全体が見えるように再現した。



平成21(2009年):旧三河台中学校跡



平成25年(2013年):南地盤掘中の旧三河台中学校跡



平成30年(2018年):建築中の麻布警察署



平成31年(2019年):完成して移転した麻布警察署



平成26年(2014年):発掘現場見学会 入り口

前身、六本木通りにあった警視庁麻布警察署は、庁舎の老朽化により、六本木四丁目の旧港区立三河台中学校跡地に移転する計画が進められていた。
用地の整備を行っていたところ、過去にあった旧砲臺、旧海軍の建物、さらにさかのぼって江戸時代の旗本花房家屋敷の遺構が発見された。旗本花房家屋敷跡遺構の発掘調査は、平成25年(2013年)から開始され、平成26年(2014年)5月24日には、発掘現場見学会が行われた。発掘調査終了後、庁舎の建設は着工され、平成30年(2018年)末に完成、新庁舎での業務は平成31年(2019年)2月10日から開始された。



平成26年(2014年):発掘現場見学会 発掘調査の様子



変わりゆく麻布 この10年 時代の流れ

II

分科会メンバー作成パネルの紹介

港区麻布地区総合支所による「麻布未来写真館」の事業は、平成21年(2009年)に始まり、それから10年が経った。この間も、麻布のまちは絶えず変貌を繰り返してきた。見なれたビルがいつの間にか消えてしまい、真新しいビルが建ち上がっている。このようなことは日常茶飯事である。変わりゆくのは建物ばかりではない。

港区自転車シェアリング



同一規格の自転車を、地域内にあるどのサイクルポート(自転車庫)からでも貸出・返却できる有料のサービス。平成26年(2014年)10月に実証実験が始まりました。防犯自転車対策、環境負荷の低減、人々の利便性の向上などが期待され、今日では、利用できるエリアは区外まで拡大しています。

平成30年(2018年)12月現在、麻布地区には、麻布地区総合支所など15のサイクルポートがあり、多くの人に利用されている。シェアリングは、ルームシェアリング、オフィスシェアリング、カーシェアリングなど、さまざまな分野で見られる近年の流れだ。

みなとタバコルール



港区は、平成15年(2003年)にこのルールの施行を始め、平成26年(2014年)には条例で「みなとタバコルール」を制定した。これにより、若い服のゴミ捨てや変態喫煙などが減ることが期待されている。

近年は「みなとタバコルール」の文字が入ったジャンパーを着た指導員がまちを巡回し、道に落ちている若い服を拾う姿も見られる。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、分煙はさらに進むだろう。

なお、港区の特別区たばこ税収入は約59億円にのぼり、23区のなかでは2番目に多い(平成29年度)。

このパネルに掲載されている写真のうち、写真撮影に要請30～31号(2018～2019年)

変わりゆく麻布 この10年 筭[こうがい]公園



昭和35年(1964年): 当時の園内の様子、小山がある



昭和59年(1984年): 当時の園内の様子



昭和63年(1988年): 筭公園と京橋に隣接するNTTのビル



平成22年(2010年): 隣接する集合住宅から見た筭公園の様



平成24年(2012年): 桜並木の筭公園、筭小学校側から撮影



平成24年(2012年): 園内の風景、右手前は旧遊具



平成11年(2009年): 遊具が再びリニューアルされる前の風景



平成25年(2013年): 手前は再びリニューアルで設置された遊具



平成24年(2012年): 遊具の再びリニューアル工事風景



平成25年(2013年): 再びリニューアルで設置された遊具



平成25年(2013年): 新しくなった遊具と六本木ヒルズ

筭公園は外資通商りと筭小学校との間の敷地に設けられた公立公園で、昭和45年(1970年)に開園。公園ができる前の1960年代には、手前一角に古く小さな水産住宅が何軒も建っていた。住宅が建つ一角の真ん中あたりには木が一本あり、秋になると、葉がたわわになったことを覚えている。公園の北側、通称球人、だがには「こうがい堂」という字が書かれた石碑があり、教科書や文庫集、工作用品、プラモデルなどを売っていた。

筭公園は子育て中によく利用した懐かしい場所でもある。平成11年(1999年)頃、公園が遊具を全面にリニューアルされた。フェリスピアスレチックや遊具とさせる吊り橋やターザンロープ、滑り台が組み合わされた大きな遊具があって、遊具になるさまざまな形の親子連れでにぎわい、子ども同士仲良く遊んでいた姿が思い出される。その後、石われた園内の再びリニューアル工事により、現在は形場が犬塚よけのフェンスを囲われ、遊具も低年齢向けの、より安全なものと張り小型のものに変わっている。

開園日には、毎週、近くの幼稚園に通う親子連れがピクニックをする姿を見かけたり、いつも同じような列に並びに来る外国人の子供たちがいたり、テレビ番組の撮影が入ることもあれば、夜、火を燃やした方が激しく来るなど、さまざまな変わった方をしていて、夜の間には、音階から場所取りをして、楽しげに音を鳴らす方もいる。まさに現在、左側、在り者めらしい場所となっている。

このパネルは制作されている資料が元で、写真撮影:田中政典氏、写真加工:田中政典氏



変わりゆく麻布 この10年 広尾橋交差点付近

外苑西通り沿いに東横メトロ日比谷線広尾駅の1番・2番出口がある交差点は、広尾橋交差点と呼ばれている。これは、今は埋立地(人工地)になっている井川(こうがいがわ)にかかる広尾橋があったことにちなむ名称である。
 広尾橋交差点から有栖川記念公園へと向かう道にはベーカリーや飲食店などが並び、カフェのテラス席でくつろぐ人たちは外国人の姿も少なくない。かつて、この通り沿いには数軒の良いタイヤ店があった。車のホイールを曲げてしまったときなど、すぐに元に戻していただけた。ありがたい思い出がある。



平成22年(2010年):広尾橋交差点から有栖川記念公園に向かう道沿いにあったタイヤ店



平成24年(2012年):左の写真に近い位置から撮影。タイヤ店はなくなり新しいビルが建っている。



平成30年(2018年):左・中央の写真と同じ場所を広尾橋交差点寄りから撮影



平成22年(2010年):有栖川記念公園寄りから撮影



平成24年(2012年):左の写真に近い位置から撮影



平成31年(2019年):左・中央の写真と同じ一角



平成21年(2009年):銀行のある側から見た広尾橋交差点。右上方の青いビルは1階部分が広尾駅の地上改札(2番出口)がある。おなじみセダンタイプのタクシーの姿も。



広尾駅の出口やショッピングモール、銀行などがある交差点は麻布ではめずらしく、ここ10年、景観にはあまり変化のない場所である。しかしよく見ると、変わっている車が変わっている。以前はセダンタイプの色鮮やかなタクシーや、黒塗りのハイブリッド車などをよく見かけたものだが、最近ではコミュニティバス「ちいばす」に加え、ミニバンタイプの黒塗りの濃い藍色の「N-TAXI」(ジャンクタクシー)を多く見かけるようになった。
 広尾駅のモノアブリー化に伴い、六本木駅(有明線)は、外苑西通りの海傍階地下で結ぶ連絡通路が整備され、一方の出入口にエレベーターが設置されると、通りにかかっていたバゲージもなくなった。麻布未来写真館のまち歩きで通りを撮影する際、よく利用した歩道橋だった。



平成31年(2019年):左上の写真に近い位置から撮影した広尾橋交差点。景観に大きな変化は見られないがミニバンタイプのタクシーの姿に時の流れを感じる。

変わりゆく麻布 この10年 有栖川公園交差点

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



平成23年(2011年):南部坂下から 改築前のナショナル麻布スーパーマーケット(以下、スーパーマーケット)。後ろの茶色いビルはドイツ連邦共和国大使館の事務棟。



昭和50年(1975年):南部坂下から



平成24年(2012年):改築中のスーパーマーケット



平成30年(2018年):南部坂下から この付近は江戸時代「栗尾町」と呼ばれていた。現在では南麻布四・五丁目。



平成24年(2012年):新装オープンしたスーパーマーケット



平成30年(2018年):南部坂上から

現在の有栖川公園記念公園は江戸時代は徳田・栗田等の下屋敷であった。一方、反対側、ドイツ連邦共和国大使館、南部取敢会付近も、松平家、酒井家等の屋敷であった。南麻布は東京メトロ広尾駅から松丘坂上へ行く最寄りルートである。

池田正太郎の『先平野町域』に「麻布一本松」という形跡がある。その中で、中心の宗廟は麻布十番から大塚坂を上り麻布一本松に着くが、そこで流人と喧嘩になり争いになりかたむかないと聞いて、そのまま建って本村町から南部坂を下り、広尾まで歩いてしまふ。つまり元麻布ヒルズや麻布氷川神社前を走り過ぎ、松丘坂上から天宮寺そして南部坂を下りてナショナル麻布スーパーマーケットを越して広尾までのコースという麻布のまち歩き的なコースである。



このパネルは複製されている古い写真について、写真撮影:田中政典氏、写真提供:田中政久氏、※「有栖川公園記念公園」の表記は、有栖川公園記念公園の直前にある交差点名標識による。

変わりゆく麻布 この10年 フランス大使館



平成21年(2009年): イベント開催中の旧フランス大使館庁舎 外壁にも作品が掲げられた



平成21年(2009年): 作品が掲げられる前の外壁部分



平成21年(2009年): イベント開催中の風景 ニュラ・ビュフ「ノーマンズランドの門」



平成21年(2009年): 青木坂下より 手前には旧南麻布富士見町会館



平成21年(2009年): 旧フランス大使館ゲート前



平成30年(2018年): 青木坂下より 右手前は新しくなった南麻布富士見町会館



平成31年(2019年): 新しいフランス大使館ゲート前



平成21年(2009年): イベント開催中の風景 大使館旧庁舎へのアプローチ

平成21年(2009年)、南麻布にあるフランス大使館の新庁舎が竣工した。昭和32年(1957年)にジョゼフ・ベルモンによって設計された旧庁舎は、新庁舎に大使館機能を移されたことを機に解体されることとなった。その解体を前に、旧庁舎で日仏のアーティスト70組200人近くが参加するアートイベント「NO MAN'S LAND」が開催された。このアートイベントでは、屋内外を問わずあらゆる空間(事務所、廊下、資料室、階段、地下室、庭園など)が作品で満たされ、連日多くの人々が訪れ、好評を博した。そのため、会期は当初、平成21年(2009年)11月26日から平成22年(2010年)1月までであったが、2月18日まで延長された。

もともとこの地は、徳川家第19代当主である徳川義親の跡地であり、大きな敷地には今もなお自然が残されている。解体された旧庁舎跡地は、現在マンションが建っている。

フランス大使館北西側にある青木坂は、北東方向に坂を上るとフランス大使公邸がある。その坂の名は、江戸時代中期以後、北側に幕本青木氏の屋敷があったために付けられたという。



変わりゆく麻布 この10年 東京アメリカンクラブ

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



平成17年(2005年):建て替え前のアメリカンクラブ(日本経済新聞視点から)



昭和46年(1971年):人々に知られるアメリカンクラブ



平成21年(2009年):建て替え中のアメリカンクラブ



平成23年(2011年):建て替えにより、敷地内に新たに建てられたマンション(日本経済新聞視点から)



平成25年(2013年):建て替え後のアメリカンクラブ入り口

東京アメリカンクラブは、1928年に設立された会員制社交クラブ。平成23年(2011年)、建て替えによって最先端ビルに生まれ変わった。アメリカンクラブには、多様な文化プログラムが用意されており、日本の文化の紹介や世界から訪れる人々の交流の場として同僚会、宴会場、複数のレストラン、プール、ジム他運動施設がある。敷地内にはフランク・ロイド・ライトのモニュメントが置かれ、歴史を感じさせる石灯籠も見られる。地域とも有意義な交流が行われている。現在、様々な国籍の3,300人前後が会員である。

※本資料は東京アメリカンクラブの提供による。



平成22年(2010年):建て替え中のアメリカンクラブ入り口付近



平成31年(2019年):アメリカンクラブ入り口付近



このパネルに収録されている古い写真は、(左)写真家(株)写真提供:東京アメリカンクラブ

変わりゆく麻布 この10年 日本国憲法発祥の地



平成31年(2019年)「日本国憲法草案発祥の地」の碑があるビル付近(この交差点を真っ直ぐ下ると表参道行)



「ザ・AZABU」第5号：日本国憲法草案についての記事



平成31年(2019年)ビルの敷地内 正面奥に碑がある



平成31年(2019年)「日本国憲法草案発祥の地」の碑

日本国憲法発祥の地が、麻布にあることはあまり知られていない。
ホテルオークラ東京から、スペイン大使館、京屋博古館分館へと進む、表参道谷へと下る交差点を右に曲がったビル(アーク八木ビル)敷地内に「日本国憲法草案発祥の地」の碑がある。
日本国憲法草案発祥の地についての詳しい情報は、麻布地区の地域情報誌「ザ・AZABU」第5号の「麻布の軌跡」62年前の雑誌「麻布の軌跡」をご覧ください。

麻布地区の地域情報誌「ザ・AZABU」第5号
<http://www.aoyama.or.jp/azabu/>
<https://www.facebook.com/azabu/>



平成29年(2017年)表参道ガーデンの裏から正面に碑があるビルを見ることができる



平成31年(2019年)左の写真に近い位置から撮影 左手には新たにタワーマンションが建設されている

明治通り 絶江坂[ぜっこうざか] 付近

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和初期(1920年代):明治通り、絶江坂付近。右手前は西福寺(さいふくじ)、左奥には映画館を見ることができる。



昭和50年(1975年):絶江坂坂下から



平成30年(2018年):明治通り、上の写真と近い位置から撮影。変わらぬ様子の西福寺を見ることができる。



平成27年(2015年):絶江坂

昭和初期、この辺りの古川沿いには多くの町工場が並んでおり賑わっていた。
明治通りには市電(後の新電)の線路が見え、写真左手に映画館(弥生堂→麻布南堂→麻布松竹館)がある。映画館の前に立つ「功徳り屋」には、「松竹キネマ株式会社」「カフェの女王(松竹演田、1927年公開、監督:大久保圭英)」の文字が読み取れる。
映画館の裏手には、有名な漫画「黄金拼」にも出てくる絶江坂がある。

昭和初期(1920年代)の写真では、西福寺の前に多くの人々が並んでいる。この頃の様子をご存知の方はご一報いただきたい。



このパネルに掲載されている古い写真について、(左)写真上:写真提供:次郎博氏、(右)写真上:写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口政典氏。



令和元年(2019年)「日本・フィンランド外交関係樹立100周年記念「フィンランド・タンゴ名曲コンサート」



令和元年(2019年)「フィンランド・タンゴ名曲コンサート」
ベッカ・オールの駐日フィンランド大使の挨拶



令和元年(2019年)「フィンランド・タンゴ名曲コンサート」前日に開催された「音楽deまちづくり」にて即興演奏の素材とする好みの風景写真を選ぶ参加者



平成30年(2018年)「フィンランドの新しい魅力と美しさを発見し、体験するイベント「FIND FINLAND 2018」で、かわいいフィンランドのダンス会場に場造りつくる参加者



平成30年(2018年)「FIND FINLAND 2018」で、タンゴ(タンゴをはじめとする多様なペアドダンスを誰もが平等に、通年楽しめるフィンランド独自のダンス文化)を深しむ参加者



令和元年(2019年)「フィンランド・タンゴ名曲コンサート」の林穂晴隆に披露した歌声が大使夫人に気に入られ、同年12月のフィンランド大使館での独立記念パーティーで歌うことになったいささん(写真上)



いささんは、2016年のフィンランドにおける、フィンランド・タンゴジュニアコンクールで優勝経験をもっています(写真下:2016年、コンクール優勝時の写真)。

令和元年(2019年)11月16日、日本・フィンランド外交関係樹立100周年を記念して「フィンランド・タンゴ名曲コンサート」が港区内で開催されました。フィンランド関係の方々をはじめ、区内外の多くのの方々、他国の大使館の方々も来場され、国際色のとても豊かなコンサートになりました。コンサート冒頭、ベッカ・オールの駐日フィンランド大使からご挨拶をいただき、「私が喜ぶと出会ったのも、実はフィンランド・タンゴダンスパーティーでした」とのエピソードに、日フィン友好を祈る観客から盛大な拍手が湧き上がりました。

コンサートでは、フィンランドから初来日したピアニストが、オリジナルのフィンランド・タンゴをベースに独自のアレンジを加えた数々の名曲を華麗なメロディーで演奏し、即興で合わせたダンスも披露されました。まさにそれは「港区発祥の新しいダンス文化の創造」と言っても過言ではないかもしれません。

今回、初めてフィンランド・タンゴを耳にされた方も多く、来場者アンケートには「初めて聴く曲でありながら、どこか懐かしく深みのあるフィンランド・タンゴを知ることができて感激します。ダンスも洗練されており、素晴らしいかったです。」「アルゼンチンタンゴとは違いますが、やわらかくて美しく、聞き心地がよかったです。」との感想も寄せられました。その音楽とダンスに新しい発見と興しみを覚えられた方がたくさんいたようです。

このコンサートを企画・主催したのはフィンランド・タンゴ&ダンス国際協会です。平成28年(2016年)10月に港区で生まれたこの協会は、フィンランドのタンゴを独自に研究・紹介し、地域に密着した文化として再構成する活動を進めています。本場フィンランドのタンゴ協会とも協力関係を築き、2017年にフィンランド・タンゴがフィンランド国内の無形文化遺産に認定登録された際には、国際的なアピール活動の一翼を担いました。これからも、フィンランド・タンゴのユネスコ無形文化遺産登録を目指して全面協力をされること。また、今後も大使館に協力を仰ぎながら、フィンランド・タンゴ&ダンスをモチーフにしたコンサートやフィンランド酒オンラインイベントなどなど、ユニークで先駆的な取り組みで皆さんの企画を行い、フィンランド・タンゴ・ダンスを通して、日本とフィンランドの国際文化交流をますます深めていこうとしています。

このパネルに掲載されている写真について、写真提供「フィンランド・タンゴ&ダンス国際協会(https://www.findthetango.com/)」

「ちょこっと立ち寄りカフェ」×「麻布未来写真館」

II 分科会メンバー作成パネルの紹介

「ちょこっと立ち寄りカフェ」は、麻布地区の4が所の「いきいきプラザ」(ありすいきいきプラザ、麻布いきいきプラザ、飯倉いきいきプラザ、南麻布いきいきプラザ)で定期的に開催されている地域サロン。お茶やお菓子が並んだテーブルを囲んでレクリエーションを楽しんだり、なにがを学んだり、地域にお住まいのご厚配の方々の笑顔があふれる素敵な集いの場になっています。

そんな「ちょこっと立ち寄りカフェ」に「麻布未来写真館」というテーマの日を設けていただき、2018年9月13日(ありすいきいきプラザ)、2019年10月2日(飯倉いきいきプラザ)、2020年1月22日(南麻布いきいきプラザ)の3回、参加者のみなさんと麻布未来写真館のメンバーが交流しました。

本パネルでは、飯倉いきいきプラザで開催された2回目の「麻布未来写真館」の様子をご紹介します。なごやかな雰囲気ながら、麻布の今と昔の写真を見比べながらあれこれ話し合い、ひと昔前の麻布について、貴重なお話をたくさん聞くことができました。



「大通りからちょっと入ったあたりには百貨店さんがあってね」「道幅は4軒あったのよ」など、白地図を囲んで、かつて麻布西側にあったお店の場所を指してはマーキング、八百屋、魚屋、衣店、パン屋、天ぷら屋、豆腐屋、呉服屋、物産屋、下駄屋、銭湯屋、電線……さまざまな商店が軒を連ねていたという当時の様にタイムスリップしたかのような、ワクワクした気持ち。



メモ書きの付箋で埋め尽くされていく白地図。郵便まもろい側は、現在の飯倉交差点と赤羽橋交差点を結ぶ輪田通り通りに、津の地理をするはや、スーツを仕立てるテーラーがあった、というお話も新鮮でした。



参加者の方が持ってきてくださった「大東亜区分三十五萬之内 麻布区詳細地図」東京大空襲前の麻布区の様子を記録した貴重な資料。市兵衛町、後楽町前、谷町、霞町など、旧町名はいずれも興味深く、麻布の街の真行きを感じさせるものばかり。



今回のテーマ「麻布未来写真館」に興味を担ぎ、基年大空襲に被害を受けた昔の地図や路線図を拝見してくださった方もいらっしゃり(右の2点の写真参照)、お話に大いに花が咲きました。鹿穴公園(麻布西が環状3号地の南側の向う)がかつて防空壕があった、というお話が心に強く、懐かしく、同公園に足を運んでみました。現在、鳥居の橋はコンクリートで整備された橋になっていて、それらしい痕跡を見出すことはできませんでしたが、「ちょこっと立ち寄りカフェ」での出会いがあってこそその貴重なお話にとでも感謝しています。



こちらの「電車案内図」(昭和11年10月現在/東京都交通局)も、参加者の方がご持参くださったもの。都電の全系統の路線は映えているだけで楽しい気持ちにさせてくれます。

左下の運賃や定期券の料金が載っている表には「無軌条(トロリーバス)」の文字も。道路の上に張りめぐらされた架線から、バタバタと火花を散らしながら走っていくトロリーバス。そんな、なつかしい光景が思い出されます。

「ちょこっと立ち寄りカフェ」×「麻布未来写真館」



こちらのテーブルでは、昔から麻布にお住まいの方、比較的新しい方、どちらの方も存にないような情報本の提供、そこからお話を進めさせていただきました。
これまでで作成したパネルや麻布未来写真館の活動報告、地図などをご覧になるなか、さまざまな思い出が時空を越えてよみがえり、話題に大いに花が咲きました。カフェの中では一番楽しかった、という嬉しいお言葉をいただき、大変嬉しかったです。



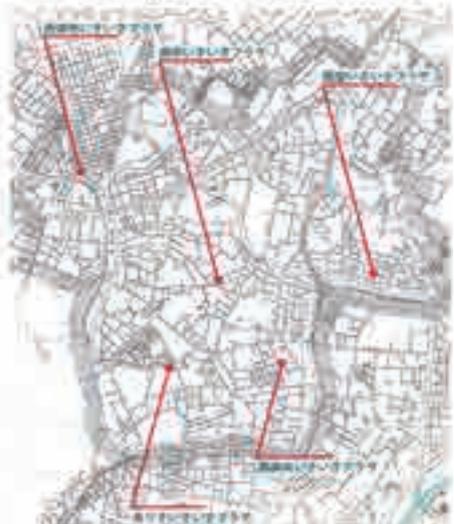
大層況の「ちょこっと立ち寄りカフェ」。古き異香昭和の時代の思い出をあれこれ話っていたがいたり、おすすめのお店の話題が飛び出したりと、リラックスした雰囲気の中、いくつもの素敵なストーリーと出会うことができました。



1枚の白地図を頼んで、お茶をしながら話げ合った豊かな時間。
人と人のつながりっていいな、あったかいな、そんなことを実感した、あつという地の2時間でした。



カフェの途中、ミュージアムツアー風に、参加者のみなさんと数値いきいきプラザで開催されていた麻布未来写真館のパネル展を見まわりました。
昔と今の対比を対出したパネルなど、みなさん熱心にご覧になっていました。
ふたたびテーブルに戻ると、パネルで印刷に残ったことをきっかけにさらに豊かなお話を展開させることができました。



麻布地区にある5つのいきいきプラザ。
このうち、数値いきいきプラザ、2面数値いきいきプラザ、ありすいきいきプラザ、南麻布いきいきプラザのほか所で「ちょこっと立ち寄りカフェ」を定期的に開催しています。
お茶やお菓子が並んだテーブルを囲んでレクリエーションを楽しんだり、なにかを学んだり、地域にお住まいのご年配の方々の笑顔が楽しめる素敵な場になっています。

令和元年度 港区総合防災訓練(麻布会場)

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



うまく的に当たるかな？
水消火器で初期消火体験



煙がたちこめる屋内での避難を疑似体験

令和元年度港区総合防災訓練が、令和元年(2019年)9月から11月にかけて、区内7つの会場で順次行われた。
麻布地区では11月10日(日)午前中に六本木中学校で、関係機関と多くの住民が参加してさまざまな体験型の訓練や展示が盛り込まれた。



力を合わせてバケツの水を運ぶリレー



協力しあえばキバキとした素晴らしい動き



消火ポンプで思い上げたプールの水をホースで勢いよく放水

令和元年度 港区総合防災訓練(麻布会場)



令和元年度港区総合防災訓練が、令和元年(2019年)9月から11月にかけて、区内7つの会場で開催された。
麻布地区では11月10日(日)午前中に六本木中学校で、関係機関と多くの住民が参加してさまざまな体験型の訓練や展示が繰り広げられた。



煙の中ではハンカチを鼻にあて体を低くして壁に沿って動く



バルコニーの避難はしこを下りる



避難でできるアルファ化米・ちゃんこ鍋の配布



体験館では防災食の紹介・配布も、



炊出しのアルファ化米などを試食



町会・自治会の方々はヘルメットに軽いジャンパーで参加



外国の大反響も参加



災害用マンモルトイレ



下敷きになった人を助ける



外国の大反響も参加

西麻布三丁目再開発エリア(街いく探検隊)

II 分科会メンバー作成パネルの紹介



六本木通りと千代田通りの交差点の角にある4区ビル。



街いく探検隊が将来の街の若い手迹と一緒に西麻布三丁目の再開発予定地を探検しました。六本木通り沿いのこだわりのデザインが特徴のマンションや老舗でんぷら屋さんのほか、裏手には昔の暮らしが点在していました。「昔は豆腐屋さんに買いに来たよ」なんて思い出話を地元育ちの方がら伺うのもまち歩き楽しみです。



日光・全谷ホテルが建てた全谷ホテルマンションは1971年築。ディテールにもこだわった外観は存在感があります。



街いく探検隊はまちの清掃をしながら探検しています。



再開発エリアから見た六本木ヒルズ。



全谷ホテルマンションの裏側。正面突き当り4以前はお強盗屋さんでした。



老舗神店のビルから全谷ホテルマンション側を望む。



左側の六本木安田ビルもデザインが凝っています。



六本木ヒルズから見た西麻布三丁目北東地区。

西麻布三丁目再開発エリア(街いく探検隊)

II
分科会メンバー作成パネルの紹介



テレ朝通り側から見た再開発エリア。通りの様子も様変わりするようです。



横田神社一の鳥居



横田神社の手水舎は弘化3年(1847年)のもの。



日蓮山妙善寺



妙善寺の庭



横田神社の鳥居は再開発でどうなるのが気になるところです。裏の狛犬の台座には、横田久保町(現在の西新橋)の名が刻まれています。妙善寺には海と池があり大きな庭がたくさんあります。再開発により正堂のマンションが広場になり、テレ朝通りからも見えるようになるようです。今では珍しい水通平屋の建物や路地も懐かしい風景です。



街いく探検隊は、子どもが主役の清掃&まち歩きを行うボランティア団体です。六本木にある妙経寺さんを起点に毎月活動しています。大人の方もお気軽にぜひご参加ください。





Ⅲ これまでの活動を振り返って

メンバーのこぼ（令和2年度の活動に参加したメンバーを中心に）

副座長 入江 誠

この一年、コロナ禍で始まって、とうとう終息しないままで終わってしまった。

記憶にも残したくない2020年であったが、その中で自然の流れに目を向けて見ると、野草、野鳥などが憩いの場をつくってくれる。数日前のこと有栖川グランド南側歩道を歩いていると思わず足が止まった。そこには一株の「白花タンポポ」咲いていたのだ！

感動の一瞬！「関東タンポポ」「西洋タンポポ」などは黄色の絨毯を敷き詰めた様に咲き誇っているのが珍しくもないが、思わず「白花タンポポ」が一面に咲いていたらと想像してしまった。5年、10年後までも咲き続けてくれたらと思っている。また見に来るよと声をかけた、その時の感動に残った一コマです。



2021年3月：有栖川宮記念公園グランド付近

Ⅲ これまでの活動を振り返って

副座長 鈴木 順二

見慣れた都心の繁華街、銀座通り、渋谷駅前。しかし、なにか様子がおかしい。よく見ると、昼間だというのに人っ子一人いない、車一台走っていない、まるでゴーストタウンのような異様な光景… こうしたありえない東京の無人風景ばかりで編まれた写真集が、20年前話題になりました（中野正貴『TOKYO NOBODY』）。そこには、六本木通りにある霞坂と市三坂の写真も収められていました。とくに興味を惹かれたのは、霞坂上から西麻布交差点の方向をワイドレンズでとらえた一枚（その後お店をたたんだ「和紙工房」というユニークな和紙製品専門店も、片隅に写っています）。ビルには日が当たっていて確かに日中。それなのに車道も歩道も完全に無人です。こんな不思議な、なんだか気味悪い光景を、まさか自分の目で現実に見ることになるろうとは、まったく思いもよらないことでした。

昨年4月7日、7都府県に緊急事態宣言が出され、「ステイ・ホーム」外出自粛が呼びかけられて、麻布の町の交通量も大幅に減り、人の姿が稀になったのです。それから数週間、体調維持のため速歩での散歩を私は続けていましたが、行き交う人はごく少なく、普段なら子どもたちが走り回っている公園に人影はありませんでした。遊具やベンチには、「きけん立入禁止」の黄色いテープが。感染防止のため密集・密接を防ぐ措置でした。当初港区は人口の割に感染者が多く、保健所など関係機関の業務は、多忙を極めたそうです。

麻布未来写真館の役割の一つは、地域の現状を映像記録に残すこと。ですから、この災禍にレンズを向けますが、そのたびに、こんな事態が二度と巡ってこないように、そのためにもこれからは事前の対策を怠らないように、と祈るような気持ちです。
(2021年3月29日)



2020年5月19日15時すぎ：けやき坂（左右2点とも）





メンバー 荒澤 経子

遠出の出来ない日々、外苑東通りの桜を目にした時、思わずシャッターを切りました。

最近、今年も桜が見れて良かったなぁと思う年頃になりました。会議になかなか参加出来ませんが、写真撮りは以前にまして楽しくなりました。



メンバー 及川 廣子

麻布区民協働スペースのフロアの壁には「麻布未来写真館」のパネルが常設として飾られている。展示内容が変わりセピア色の写真も好きだった。スペースの受付として就業から終業の5年目を迎えた。思えば変わりゆく麻布の歴史と風景を私は眺めてきたことになる。

時には来館者がパネル前に立ち眺めているとつい声をかけていた。

「いい写真ですよ」と押しつけがましく言っていたのだが共感の答えが返ってきた。

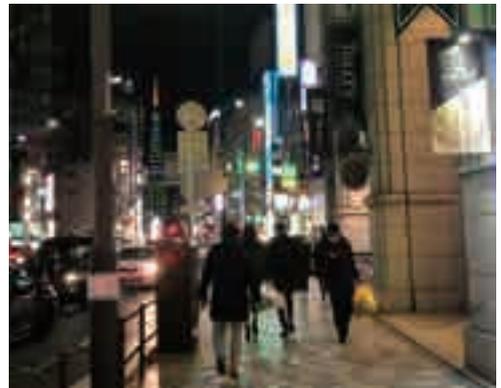
「いやあ、懐かしいです」「麻布の歴史はすごいですね」などなど。その言葉が嬉しかった。自分にとって大切な思い出の写真と出会えたのだろう。いつしか私には無縁だった「麻布」に興味をわき始めたのも事実である。そしてこの写真は誰がいつ撮影したのだろうか？

その疑問を抱きながらの私にある日、「麻布未来写真館、入りませんか？」とその日スペースを利用され、帰り際に声をかけてくださったのが近藤座長である。迷いながらの私は途中からメンバーにさせていただいた。楽しい時間が増えた。写真撮影他も新参加だが、魅力ある「麻布未来写真館」の素敵なメンバーに出会えたことに感謝しています。これからも宜しくお願いいたします。

メンバー 水野 禮子

変わりゆく麻布に生活して —— 六本木は大江戸線六本木駅が平成12年12月に開業し、新宿に10分で行くことができ、なにかと便利になり、前防衛庁が東京ミッドタウンに、三河台中学校が麻布警察になり、周りのビルも著しく変化しております。

今一番の癒し系は夜の東京タワーです。いろいろな行事にそって、赤系・青系・ピンク計と日々変わり、それがとても美しく、とても自分の心に優しく映り、夜に近づきホッとする時間がとても好きです。これからも麻布の建物、その他を映していきたいと思っています。



メンバー 岡崎 純子

この一年間を振り返りますと、様々な制約があり、思っていた活動が十分に出来ませんでした。その反面、リモートによる会議に参加させていただき、学ぶことも沢山ありました。関係者皆様のご助力によりましたことを大変感謝いたします。

時々刻々と変化し続けている麻布、六本木地区。ここ数年の変貌は著しいものです。これからも、一期一会を大切に、後世に遺す「今」の瞬間を撮っていききたいと思っています。





メンバー 椿由美子

はやいもので年度末の3月がめぐってきました。

何度か分科会の開催が見送られるなど、COVID-19の影響を受けた1年。そのような中ではありましたが、新しいことを経験する機会を得たり、うれしい出来事もありました。

感染防止対策をとりながら実施した3回のまち歩き。私が参加した8月下旬の回をふり返りますと、マスクで顔半分を覆った我われメンバーをよそに、民家の庭先ではサルスベリの木が鮮やかなピンクの花をつけ、池には涼し気に泳ぐ魚たち、善福寺の「柳の井戸」の柳は青々として優雅に枝を垂らしています。変わらぬ自然界の営みに心癒される瞬間がいくつもありました。マスク越しに見えるメンバーの方々の笑顔にも励まされました。

団体として分科会に参加している「街いく探検隊」の方々が、オンライン会議システムを活用したウェブ上でのまち歩き、いわば「オンライン街いく探検隊」を開催された折には、私もリモートで自宅から拝見。ウェブ上で麻布のまちを俯瞰したあと、ぐんぐんと特定の場所に近づいていく様子にドキドキしたり、麻布界隈で見つけたふしぎなモノにまつわるクイズにリモートで回答したり。新鮮で楽しい思い出となりました。

数日前、ひさしぶりに訪れた有栖川宮記念公園。3月も下旬とあって、桜の花が咲き、都立中央図書館前のイチョウの大木は冬芽がすっかりふくらみ、芽吹きを待つばかりといった姿。南部坂を下ると、ドイツ大使館の外壁には素敵なウォールアートが描かれていました。

自粛生活はもう少し続きそうですが、ひっそりと、心静かに麻布のまちに目を向け、小さなしあわせを見つけてゆきたいものです。



8月のまち歩きで訪れた善福寺。逆さイチョウ（山門の左手）の緑が青空に映える。手前に垂れているのは「柳の井戸」の柳。



有栖川宮記念公園の桜。



ドイツ大使館の外壁に描かれたウォールアートの一部。

メンバー 吉川一郎

私は麻布未来写真館でお世話になっていますが、ただ単にみなさんと一緒に写真撮影をするだけのようになっています。いい写真が撮れたことの思いがありません。いつも記念撮影のような写真しか撮れません。過去に振り返り、見直して撮影して良かったこともあまりありません。このような私ですが、メンバーの皆様方からは暖かい言葉をかけていただいています。麻布未来写真館のメンバーをみていると職業は色々、経歴も色々、たんに面白い、街と写真に興味がいっぱいの人たちです。江戸時代の「連」を彷彿とさせるものがあります。「連」には競争がありません。多様性があります。それを纏めるのは座長であり、江戸時代の「葛屋重三郎」です。これからもみんなで麻布の写真を撮り集めるようにしたいものです。



曹溪寺の夜桜



座長 近藤 敏康

ご報告の写真集冊子をご覧くださいありがとうございます。

近年最大と言って差し支えない、写真に残したい事象は何といっても、コロナ禍の麻布を記録して後世に残したいと言う事でした。あっという間に、マスクをしての日常になる中、感染に注意しての撮影や、オンラインを活用したミーティング、パネル展に向けた活動などなど、多くの皆様に無事ご参加頂きました。また、そんな中開催できた、パネル展では、小さいお子さんを連れたご家族から、年配のご夫婦や若いカップルと様々な世代に楽しんで頂けたことは、私どもにとって何よりの喜びでした。今後も引き続き、活動を継続して参りたいと思っておりますので、古い写真のご提供、未来写真館へのご参加など、ご検討よろしくをお願い申し上げます。尚、今後も公共施設などでの常設パネル展示や、期間限定のパネル展など、チラシや広報、ネット、SNS などでお知らせいたしますのでぜひ多くの方にご覧頂けたらと思います。

末尾になりましたが、活動にご協力いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。



メンバー 街いく探検隊

街をゆっくり思い思いに歩きながら、街の風景をカメラに収める麻布未来写真館。足早に先を急ぎ歩く道も、未来に遺すことを意識して歩くと、街並みも人々も少し違って見えてきます。活動に団体として参加して2年が過ぎ、思い出以上歴史未満の街の記憶を辿ることに益々の楽しさを感じます。将来の街を担い手となる子ども達のためにも、ぜひ地域の色々な世代の方に参加してもらえたらと思います。



街いく探検隊は、子どもが主役の清掃&まち歩きを行うボランティア団体です。六本木にある妙経寺さんを起点に毎月活動しています。大人の方もお気軽にぜひご参加ください。



講師 達川 清

息をする様に変化し続ける街。東京、港区、麻布地区。

今、我善坊が姿を変え出現しようとしている。

麻布未来写真館のメンバーは10年以上に渡って変貌する麻布を記録してきた。

この街を愛しているから。より良い街になって欲しいから。

これからも見つめ続けます



区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会 メンバー

天羽 大器	荒澤 経子	入江 誠	及川 廣子	岡崎 純子
加藤 生磨	小山 浩	近藤 敏康	櫻井 綾	鈴木 順二
田岡 恵美	椿 由美子	増子 照孔	水野 禮子	横島 久子
吉川 一郎	街いく探検隊			

※平成27年度から令和2年度までに携わったメンバー 50音順



IV 参考資料

麻布未来写真館フォトギャラリー

IV
参考資料



東洋英和女学院での常設展示



東京大学 谷川智洋特任教授の協力によるAR体験パネルの展示



港区役所ロビーでのパネル展



フジフィルム スクエア ミニギャラリーでの展示



麻布地区総合支所の地域事業とのコラボレーションイベント



月1回開催する分科会での検討

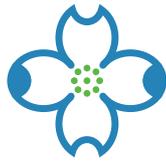


分科会の一環として実施するまち歩き（撮影）



まち歩き（撮影）参加メンバーでの集合写真

区 の 木



ハナミズキ

区 の 花



アジサイ



バラ



港区のマークは、昭和24年7月30日に制定しました。
旧芝・麻布・赤坂の3区を一丸とし、
その象徴として港区の頭文字である「み」を力強く、図案化したものです。

▶ 表紙・裏表紙の写真



明治36年(1903年)：麻布小学校 写真提供：港区立麻布小学校



平成30年(2018年)：港区麻布地区総合支所

小学校から区役所へ

現在、港区麻布地区総合支所がある場所には、以前、麻布小学校が置かれていました。
港区麻布地区総合支所(当時の麻布区役所)が現在の場所に移転したのは、昭和10年(1935年)のことで、その後、昭和22年(1947年)に旧芝・麻布・赤坂の3区が統合され、港区が誕生、麻布区役所は港区役所麻布支所となりました。
平成18年(2006年)4月に、より便利に、より身近に、より信頼される区役所をめざして導入された総合支所制度により、港区麻布地区総合支所となりました。



令和元年(2019年)：港区麻布地区総合支所前

刊行物発行番号 2020310-1435

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会
活動の記録(平成27年度～令和2年度)

令和3年(2021)年3月 発行

発行・編集：港区麻布地区総合支所協働推進課

港区六本木五丁目16番45号

TEL 03-5114-8812

FAX 03-3583-3782

<https://www.city.minato.tokyo.jp/>



©禁無断転載複製

麻布未来写真館

参加メンバー随時募集！



麻布未来写真館では、メンバーの募集をしています。皆さまもぜひ参加してみませんか？
会議など活動の見学が可能です。お気軽に問合せください。

古い写真・資料を探しています



明治～平成 10 年代頃の写真・資料等を募集しています。
麻布地区の建物や風景、お祭りなどの懐かしい写真がありましたら、下記問合せまでお寄せください。

地域 SNS アプリ「PIAZZA」



身近なイベントや日常の暮らしに関する情報交換などを通じて、地域密着型のコミュニケーションを促進するためのアプリ「PIAZZA」に、麻布未来写真館の活動を投稿しています。ぜひご覧ください。

「麻布未来写真館」の情報はこちら

港区ホームページ

<https://www.city.minato.tokyo.jp/>

麻布未来写真館

検索



問合せ

03-5114-8812

港区麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当

